

東京科学大学大学院  
保健衛生学研究科年報

2024年度



2026年3月



## はしがき

2024年10月に東京医科歯科大学は東京工業大学と統合して「東京科学大学 (Science Tokyo)」という一つの新しい大学としてスタートを切りました。

これを受けて、本学では、理工学との融合が活性化し、世界最高水準の教育研究活動の向上とイノベーション創出を目指す土壌が広がります。保健衛生学研究科においても、世界最高水準の研究者育成が第一の使命となるとともに、教員一同も世界最高水準の教育研究者として活動展開し、イノベーションの創出が求められます。

このミッションを達成すべく、保健衛生学研究科は看護先進科学専攻として、東京科学大学病院看護部をはじめとした看護実践者と強い連携・協働を図るとともに、医学部・歯学部との横のつながり、さらには理工学との連携を強化しながら、看護学の発展と社会への寄与を目指していきます。

また、2026年度からは、本研究科の大学院は、これまでの5年一貫課程を廃止して、新たに2年間の修士課程を開始します。修士課程を2年間、博士課程を3年間とすることで、今後は、実践経験と大学院進学が柔軟に数年ずつで経験できることとなります。

超高齢人口減少社会や科学技術が大きく進展する変革の時代の中、1人1人の個別性を大切にし、その人の医療(cure、診療の補助)と生活(care、療養上の世話)を支える学問である看護学に期待される役割はより大きくなると確信しております。

今後も東京科学大学保健衛生学研究科の教員・大学院生を含む各分野の構成員は、世界における看護界のリーダー的存在となることを目指し、本年報に記す活動実績が一層豊かになるよう、日々研鑽して参ります。

2026年4月吉日

東京科学大学大学院

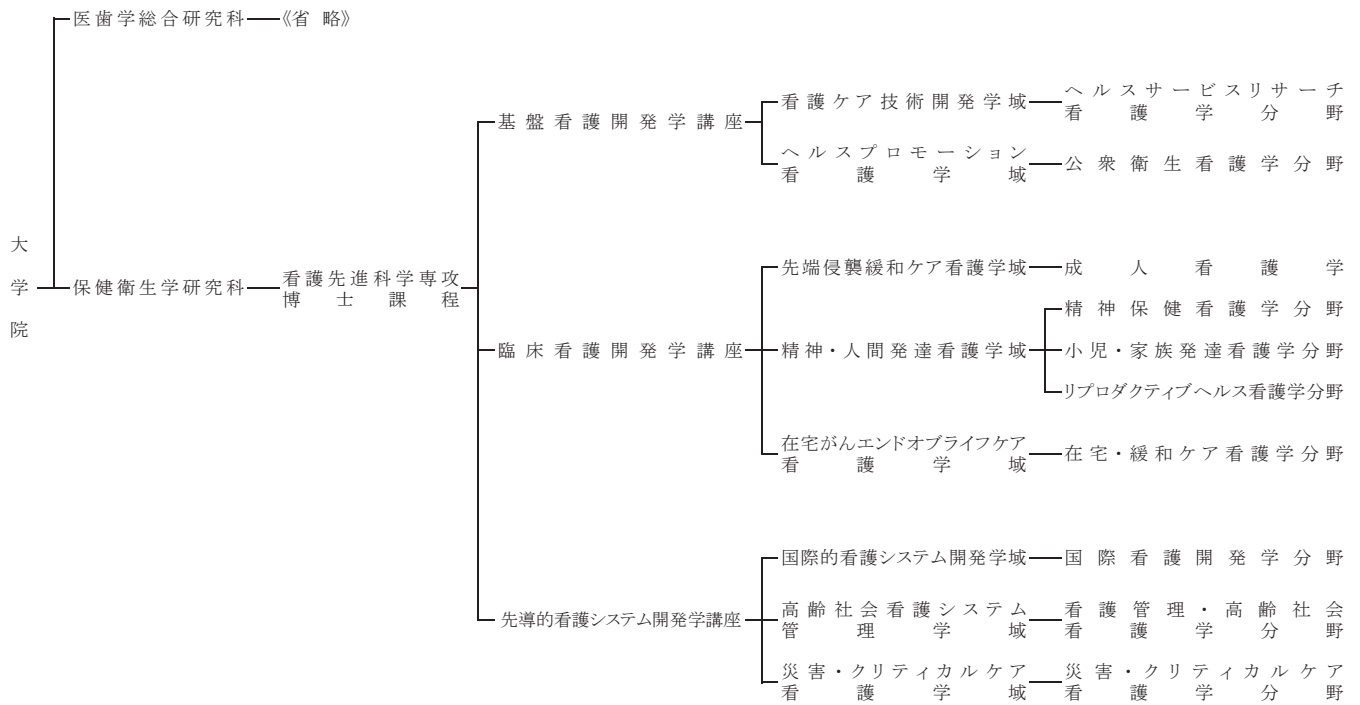
保健衛生学研究科長 福井小紀子

# 目 次

I. 機構図	2
II. 各教育研究分野における教育・研究	
<b>看護先進科学専攻</b>	
<b>基盤看護開発学講座</b>	
看護ケア技術開発学域	
ヘルスサービスリサーチ看護学分野	4
ヘルスプロモーション看護学域	
公衆衛生看護学分野	7
<b>臨床看護開発学講座</b>	
先端侵襲緩和ケア看護学域	
成人看護学分野	14
精神・人間発達看護学域	
精神保健看護学分野	17
小児・家族発達看護学分野	21
リプロダクティブヘルス看護学分野	24
在宅がんエンドオブライフケア看護学域	
在宅・緩和ケア看護学分野	28
<b>先導的看護システム開発学講座</b>	
国際的看護システム開発学域	
国際看護開発学分野	38
高齢社会看護システム管理学域	
看護管理・高齢社会看護学分野	42
災害・クリティカルケア看護学域	
災害・クリティカルケア看護学分野	46
III. 2024年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	52
IV. 2024年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文題目一覧表	55
V. 委員会委員名簿	57
VI. 就職状況一覧表（2025年3月卒業・修了者）	59

# I. 機 構 図

東京科学大学大学院機構図 (2024年10月1日)



## Ⅱ.各教育研究分野における教育・研究

## ヘルスサービスリサーチ看護学分野

### Department of Nursing Health Services Research

教授 柏木聖代  
准教授 森岡典子

大学院生  
5年一貫制博士課程  
古川彩子  
柴野裕子  
勝又彩瑛  
鈴木のどか  
山口恵美  
大柿真彦  
町田亜子

#### (1) 分野概要

ヘルスサービスリサーチ (Health Services Research) は、社会的要因、報酬体系、組織の構造 (structure) やプロセス (process)、アウトカム (outcome)、医療の質、サービス利用、コスト、アクセシビリティ等を科学的に探究する学際的な研究分野です。

当分野は、エビデンスに基づく政策立案を推進するために、看護の立場からヘルスサービスリサーチに取り組み、その研究成果を世界に発信することを通じて、質の高い看護サービスが必要な人に提供される社会の実現の一助となることを目指しています。

#### (2) 研究活動

##### 1) ナーシング・ヘルスサービスリサーチ

国や自治体レベルのデータ分析等を通じ、病院・施設・在宅等における主に看護サービスの質 (インプット・プロセス・アウトカム) に関するヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。

##### 2) リアルワールドデータを活用した看護サービスの質・政策評価研究

レセプトや電子カルテなどのリアルワールドデータを用いた学際的アプローチにより、看護サービスの質・政策評価にかかる研究に取り組んでいる。

##### 3) 保健医療人材の需給推計および地理的分布に関する研究

看護職等の保健医療人材の需給推計、地域偏在や人材供給量の検証に取り組んでいる。

##### 4) 看護実践の可視化・知識ベースの開発

優れた看護実践の可視化を目指し、看護実践に関する看護師の集合知を形成し、科学的に解明するための方法論の検討を行っている。

### (3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基盤看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識・技能を教授している。また、4年生には、当分野での卒業研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

大学院では、主にナーシング・ヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。院生の主体性を尊重してテーマを精選し、学位論文としての意義と研究の進捗に対して、分野の全院生が参加する研究ゼミと、教員による個別指導を効果的に組み合わせて実施している。

### (4) 教育方針

#### 1) 学部教育

学部教育では基盤看護学を担当し、アクティブ・ラーニングの技法を積極的に取り入れ、看護専門科目の知識、態度、技能形成の基盤づくりを行っている。

1年次には専門科目の「人間の健康と看護」、「基盤看護学実習Ⅰ」、「看護制度論」を開講した。「人間の健康と看護」は看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基盤看護学実習Ⅰは本学病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指す。看護制度論では、国内外の政策立案に携わる看護職の活動の紹介もふまえ、看護職の法的位置づけと看護実践の特徴を知り、看護の機能と役割を理解するための基礎的知識を養うことを目的とする。

2年次は、基盤看護学Ⅰ・Ⅱ、基盤看護学演習Ⅰ・Ⅱおよび基盤看護学実習Ⅱを開講している。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指す。また、基盤看護学実習Ⅱでは、看護過程の展開を理解するとともに、日常生活援助を通して「健康とは」「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いている。

4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の仕方について指導した。学内での発表にとどまらず、国内外での学会発表、学術誌への論文を投稿できるよう指導を行なっている。

#### 2) 大学院教育

大学院教育ではヘルスサービスリサーチ看護学特論Ⅰ・Ⅱ、およびヘルスサービスリサーチ看護学演習Ⅰ、看護政策学特論、特別研究Ⅰ・Ⅱを担当している。

ヘルスサービスリサーチに関する手法を学び、国内外の政策立案に資する研究成果を看護の立場から発信できるよう、指導を行っている。自身の研究テーマに加え、分野で取り組んでいる大規模研究プロジェクトへの参画等を通じ、専門的な知識や技術のみならず、研究者としての実践経験を積み重ね、国内外で活躍できる人材の育成を目指している。

### (5) 臨床活動および学外活動

#### 研究支援

医学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また国内外の他大学との共同研究や地域の組織や機関等との共同研究や研究支援を行っている。

### (6) 研究業績

#### [原著]

1. Kashiwagi Masayo, Morioka Noriko, Terajima Miho, Hanari Kyoko, Sugiyama Takehiro, Inokuchi Ryota, Tamiya Nanako. Awareness-raising activities of advance care planning for community residents: a nationwide cross-sectional survey in Japan BMC Palliative Care. 2024.12; 23; 303
2. Ayako Furukawa, Masayo Kashiwagi, Noriko Morioka.. Employment status of older nursing staff aged 55 years and older in care facilities: A nationwide cross-sectional study in Japan Global Health & Medicine. 2024.08; 6(4); 225-235

3. Masayo Kashiwagi, Kimikazu Kashiwagi, Noriko Morioka, Kazuhiro Abe. Last year of life care transitions between long-term care insurance services in Japan: Analysis of long-term care insurance claims data *Geriatrics & Gerontology International*. 2024.07; 24(9); 883-890
4. Morioka N, Kashiwagi M, Kashiwagi K, Abe K, Miyawaki A. Characteristics of first-time users of the nursing small-scale multifunctional home care service: a pooled cross-sectional study using Japanese long-term care insurance claims data from 2012 to 2019. *BMJ open*. 2024.05; 14(5); e080664
5. Tomoko Tamaki, Noriko Morioka, Ako Machida, Masayo Kashiwagi . Trends in the geographic inequality of advanced practice nursing workforce in cancer care in Japan from 1996 to 2022: a panel data analysis *Human Resources for Health*. 2024.05; 22; 33

#### [総説]

1. 柴野 裕子, 森岡 典子, 柏木 聖代. 医療的ケア児やその家族に対する専門職間の協働の実践：スコーピングレビュー *日本公衆衛生雑誌*. 2024.08; 71(8); 391-407
2. 柏木聖代. 2015-2017 年度に閉鎖した訪問看護ステーションの特徴。「介護サービス情報公表システム」のパネルデータを用いた分析より コミュニティケア. 2024.05; 26(5); 34-37

#### [講演・口頭発表等]

1. 佐藤 由香, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 森岡 典子, 柏木 聖代, 吉田 奈永, 徳丸 慶安, 藤本 来さき, 吉田 直美. 歯科衛生学生による看護学生への口腔ケアに関する健康教育の効果-フィードバックからの検討-. 日本歯科衛生学会第 19 回学術大会 2024.09.21 新潟
2. 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 森岡 典子, 柏木 聖代, 高澤 維月, 吉田 奈永, 吉田 直美. 歯科衛生学生における多職種連携教育の 尺度を用いた評価の試み. 日本歯科衛生学会第 19 回学術大会 2024.09.21 新潟
3. 玉置 知子, 森岡 典子, 町田 亜子, 柏木 聖代. 日本における 1996 年から 2022 年までのがんの専門・認定看護師の地理的分布 の推移：パネルデータ分析. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.24 名古屋
4. 宇田川 さくら, 森岡 典子, 森脇 睦子, 柏木 聖代. DPC 及び様式 9 を用いた入院期間中の実質看護配置と患者アウトカムの関連. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.24 名古屋
5. 町田 亜子, 森岡 典子, 柏木 聖代. 退院調整部門の人員配置と急性期病棟の平均在院日数との関連： 全国の一般病院および病棟単位の行政データを用いた横断的研究. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.24 名古屋
6. 菊地原さくら, 柏木 聖代, 森岡 典子. 訪問看護ステーションのアウトカム評価全国調査の二次分析. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.24 名古屋
7. 高橋 知聖, 柏木 聖代, 森岡 典子. 医療機関・介護保険施設・訪問看護ステーションの 管理者が採用者に求める看護人材像 —全国調査の自由記述より—. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.24 名古屋

#### [社会貢献活動]

1. 東京都訪問看護ステーション協会顧問（柏木 聖代）, 2015 年 07 月 01 日 - 現在
2. 日本在宅看護学会 理事（柏木 聖代）, 2015 年 09 月 - 現在
3. 日本医療・病院管理学会 事業委員会（柏木 聖代）, 2016 年 05 月 - 現在
4. 東京都訪問看護ステーション協会 顧問（柏木 聖代）, 2017 年 08 月 - 現在
5. 日本在宅看護学会 編集委員会委員長（柏木 聖代）, 2018 年 06 月 - 現在

## 公衆衛生看護学分野

### Public Health Nursing

教授	月野木 ルミ	～20230430 地域保健看護学分野	
准教授	森田 久美子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
助教	津田 紫緒	～20230430 地域保健看護学分野	
大学院生	田沼 寮子	～20230430 地域保健看護学分野	
	巽 夕起	～20230430 地域保健看護学分野	
	塩満 智子	～20230430 地域保健看護学分野	
	木村 光佑	～20230430 地域保健看護学分野	
	小野寺 春香	～20230430 地域保健看護学分野	
	川原 瑞希	～20230430 地域保健看護学分野	
	三村 祐美子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	丸山 佳代	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	保木 みか	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	大竹 文	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	角田 紘子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	庄司 花円	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	石井 佳代子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	大平 綾美	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	研究生	山本 晴美	～20230430 地域健康増進看護学分野
	技術補佐員	河邊 優	

#### (1) 分野概要

本分野では、公衆衛生分野を専門として、地域の健康課題解決や地域保健活動への貢献を目指し、教育・研究を行っている。

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を行い、保健師課程の教育では、探求心とリーダーシップを備えた、自治体や国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。また、大学院教育では、国際的に活躍できる看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。

研究は、公衆衛生分野全般を範囲とし、特に循環器疾患とその危険因子について、関連の解明と予防方法の開発に力を入れ、多くのエビデンス創出に貢献している。

#### (2) 研究活動

公衆衛生を専門とし、地域の健康課題解決や地域保健活動へ貢献できるエビデンスの創出を目指した研究を行っている。主に循環器疾患と危険因子との関連の解明と予防方法の開発をテーマに、疫学研究、介入研究、保健統計という疫学手法を用いて研究を行っている。

主な研究テーマ

1. 循環器疾患と危険因子との関連の解明（疫学研究、保健統計）
2. 保健指導、健康教育の開発と実証研究
3. 循環器疾患、メンタルヘルス、産業保健、母子保健、がんの予防活動、社会実装研究
4. 公衆衛生活動の開発と評価

5. 地域健康づくりに関する研究  
6. 労働者の親介護に関する研究

2024年度の具体的な研究活動内容は、

- ・次期健康日本 21 策定評価に向けて、循環器疾患危険因子の重積と健康寿命に関する疫学研究を行った。
- ・子育て中の被扶養者に対する生活習慣病予防健診の受診啓発に関する社会実装研究として、品川区の「20歳からの健康診査」の啓発活動を継続している。主には、ナッジを用いた健診啓発パンフレットを作成し区内の医療福祉機関、児童館、子育て支援活動団体、幼稚園などに配布し、行政や子育て支援団体と協働して子育て女性に対する受診啓発を開始し2年後の評価を行った。前年度までは年少人口割合が高い地域に焦点を当て、健診未受診の母親に対するインタビュー調査、健診受診体験を持つ母親らに対するインタビュー調査を行い、受診およびその継続に結び付く戦略を分析した。今年度は、既に受診を継続している母親らにインタビュー調査を行い、継続要因を検討した。子育てイベントでの健診受診率、認知度調査ではともに前年度より上昇が認められた。また、受診促進方法について日本公衆衛生学会で発表した。
- ・厚生労働省予防健康づくりに関する大規模実証事業に参画し、循環器疾患予防の食行動変容をめざした尿ナトカリ比測定と保健指導、食環境整備に関する介入手法を開発し、2021年度より全国自治体と職域で実証研究を実施している。特に、循環器病予防療法士に対し、特定保健指導時のナトカリ計を用いた保健指導方法、ナトカリ計の測定について講習（講義と実技指導）を行った。
- ・令和6年度循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業において、生活習慣の行動変容を促す効果的な保健指導のエビデンス創出に資する研究を行った。特に、特定保健指導従事者に対するフォーカスグループインタビューの実施と分析を行い、第13回日本公衆衛生看護学会でのワークショップが採択された。また、ある特定の健康保険組合の保有する健診のビッグデータ解析を進めた。
- ・大学院生の研究活動では、保健師の感情労働に関する研究結果について、日本地域看護学会での発表、国際学術雑誌での掲載を行った。また、2022年に保健師ら専門職を対象に行った発達障害児への虐待に関する調査について研究成果を日本疫学会学術集会で発表した。昨年度より、テレワーク労働者を対象とした身体活動量及び運動機能向上を目的としたオンライン型教育プログラム開発を学外研究者と共同で進めており、第34回日本疫学会、第94回日本衛生学会学術総会で発表を行った。
- ・その他、日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリングレポート委員会 生活習慣病・公衆栄養グループと日本公衆衛生協会と共に、全国保健所における新型コロナウィルス蔓延による都道府県民健康栄養調査への影響について調査し、日本公衆衛生学会でシンポジウムを開催した。

学部学生は「テレワーク労働者における運動機能向上プログラムの効果」（2024年度 今井夏海）、「ポストコロナ時代におけるテレワーク労働者の生活習慣と運動機能の実態」（2024年度 東珠希）、「子育て世代の被扶養者女性における生活習慣病予防健診の受診継続に関連する要因についての検討」（2024年度 岡部歩佳）、「東京都における乳がん検診受診率の社会的要因に関する生態学的研究」（2024年度 尾崎裕佳）、「大学生が持つ HIV/AIDS に関する知識が偏見に与える影響の検討」（2024年度 菅原茉莉）、「1歳6ヶ月児健診において発達障害を早期発見・支援する際の保健師の困難感と対処法」（2024年度 村尾茉莉）、「健康推進委員が感じる難しさ・課題の実際と乗り越えるための保健師との協働の検討」（2024年度 高須美帆）をテーマに研究を行った。

大学院生は「訪問看護師への認知症高齢者ケアに関する ICT を用いた教育効果の検討」（田沼寮子）、「発達障害児に対する言葉による行動抑制に関する研究」「福祉行政報告例による 2015 年～2020 年の児童虐待相談件数の動向と地域差」（巽夕起）、「労働者を対象とした運動習慣とロコモティブシンドローム予防のための運動プログラムの検証」（塩満智子）、「慢性疾患を有する成人 高齢者とその家族に対する訪問看護師による ACP の認識と実践内容 方法」（木村光佑）、「8 年追跡調査による、高血圧や循環器疾患、がん既往のない日本の都市住民における尿中 Na/K 比変化と血圧変化との関連：神戸研究」（川原瑞希）、「小学生の母親におけるソーシャルサポートと精神健康度の関連について」（小野寺春香）「女性訪問看護師のメンタルヘルスのセルフケア支援」（三村祐美子）、「小学生の子を持つ父親の健康意識と生活習慣の改善に関する介入研究 —LINE を活用した教育プログラムの開発と効果の検証—」（丸山佳代）、「1 か月未満の児をもつ両親を対象とした育児に関しての自己効力感を高めるための看護支援—妊娠期からの継続的な支援—」（保木みか）、「精神障害者のリハビリ支援」（大竹文）、「女子高校生に対するがんリテラシー教育の実施と効果の検証」（角田紘子）、「動画教育による若年層のリテラシー能力の向上～ボディイメージに着目して～」（庄司花円）、「労働者の健康行動の動機づけプロセスに関するミックスメソッドリサーチ」（石井佳代子）、「地域在住高齢者の心理社会的健康を促進するための ICT を活用した介入プログラムの実施と評価」（大平綾美）、「訪問看護利用者へのヒーリングタッチの効果」（山本晴美※研究生）をテーマに研究を行っている。

### (3) 教育活動

#### 1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、産業保健学、保健医療福祉制度論、健康教育学演習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と実習を相互に連動させ、地域保健看護活動の理論・実践・研究の統合を目指して教育をしている。これらの科目は看護師国家試験、保健師国家試験の両方に出題される内容であり、また将来、医療職として働く際にも必ず知っておかなければならない知識・内容が詰まった講義となっている。

2024年度の学部学生の実習は、保健師コース（選択制）の学生を対象とした。

地域保健として、東京都特別区では足立区（中央本町地域・保健総合支援課、千住保健センター）、台東区（台東保健所保健サービス課、浅草保健相談センター）、葛飾区（金町保健センター、水元保健センター）、北区（北区保健所・赤羽健康支援センター、滝野川健康支援センター）の5区（8か所）で行った。東京都特別区以外の地域保健では、千葉県柏市で実習を行った。

学校保健として、筑波大学附属小学校、お茶の水女子大学附属小学校、産業保健として、株式会社 JAL グランドサービス、キヤノン電子株式会社、日本航空株式会社を実施した。

#### 2) 大学院教育

主に公衆衛生看護学特論Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学特論Ⅱ、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ、特別研究Ⅲ、看護情報統計学特論を担当している。

公衆衛生施策立案に必要な海外の理論である community as partner の洋書を精読し議論する講義や、日本の公衆衛生施策の動向や公衆衛生活動における実際の学びから、公衆衛生活動の企画・実施・評価に必要な知識と技術を修得できるように教育している。また、公衆衛生分野の研究を遂行するために、大学院生の関心のある専門領域の実践家や研究者を招いて指導を受ける機会を設けて必要な教育を行っている。

#### 3) その他

保健師教育の卒後の教育研究のフォロー体制の構築として、公衆衛生看護学分野の卒論生、大学院生、本学保健師課程コース出身者を対象としたグループメーリングリストを「東京科学大学（東京医科歯科大学）公衆衛生看護学 OGOB ネットワーク」と改称し、学会や保健師募集に関する情報を ML で共有した。

### (4) 教育方針

#### 1) 学部教育

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を目指して、低学年から地域理解の観点をもち、地域のあらゆる対象に適切に関わる力を育む。

保健師課程の教育では、特別区や市町村の保健所、保健センター、学校保健、産業保健など多様な場での実習を通して、保健師活動の実際や保健師の役割を学ぶことができる。将来、探求心とリーダーシップを備え、自治体や国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。

#### 2) 大学院教育

公衆衛生上の多様な健康課題をタイムリーに解決し発展に寄与できる研究者育成を目指し、研究の基礎となる知識・技術を習得できる研究教育体制を整えている。

また、大学院時代から第一線の実践家・研究者の研究や活動に触れる機会も積極的に設け、国際的に活躍できる看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。具体的には、学内外との共同研究、英語論文や書籍精読、英語論文執筆方法の学習機会、研究手法の演習などがある。

### (5) 研究業績

#### [原著]

1. Rumi Tsukinoki, Yoshitaka Murakami, Takehito Hayakawa, Aya Kadota, Akiko Harada, Yoshikuni Kita, Akira Okayama, Katsuyuki Miur, Tomonori Okamura, and Hirotsugu Ueshima for the NIPPON DATA90 Research Group. Comprehensive assessment of the impact of blood pressure, body mass index, smoking, and diabetes on healthy life expectancy in Japan: NIPPON DATA90 Journal of Epidemiology. 2024.12;

2. Kayo Maruyama, Kumiko Morita. Effectiveness of a Social-Media-Based Diet and Physical Activity Programme for Fathers in Japan: A Randomised Controlled Trial *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2024.08; 21(8);
3. Kayoko Ishii, Hiroko Sumita, Hitomi Nagamine, Kumiko Morita. Mixed-methods research of motivational processes in workers' adoption of healthy behavior *BMC Public Health*. 2024.03;
4. 呉代華容, 川原 瑞希, 志摩 梓, 田中 英夫, 岡村 智教, 目片 英治, 松村 祥恵, 辰巳 友佳子, 西川 智文, 木村 隆, 河津 雄一郎, 宮松 直美. 乳がん検診受診経験のない女性従業員に対する情動的受診勧奨ツールの乳がん検診受診啓発効果 クラスターランダム化比較試験 (Effect of Emotional Information on Breast Cancer Screening Attendance among Never-Screened Female Japanese Employees: a Cluster-Randomized Controlled Trial) *滋賀医科大学雑誌*. 2024.03; 37(1); 20-27
5. Ishii K, Sumita H, Nagamine H, Morita K. Mixed-methods research of motivational processes in workers' adoption of healthy behavior. *BMC public health*. 2024.02; 24(1); 537
1. 月野木ルミ. 被扶養者女性における健診・がん検診受診の促進・阻害要因の解明 *医療の広場*. 2024.07; 64(7); 14-18
2. 河村 奈美子, 坂本 真優, 笠原 聡子, 玉木 朋子, 桑田 弘美, 辻村 真由子, 宮松 直美, 喜多 伸幸, 立岡 弓子, 伊藤 美樹子, 相見 良成, 荻田 美穂子, 土川 祥, 輿水 めぐみ, 山下 敬, 片寄 亮, 川原 瑞希, 清原 麻衣子, 田淵 紗也香, 津田 知子, 中井 抄子, 色摩 茉衣子, 谷浦 直子, 向所 賢一. 看護学 OSCE における評価者間の一致度の検討 令和 4 年度実施による評価から *滋賀医科大学雑誌*. 2024.02; 37(2); 8-14

#### [講演・口頭発表等]

1. Shio Tsuda, Hisae Nakatani, Motoko Okamitsu, Ayako Ninomiya. Educational Programs for Working Caregivers of Elderly Parents: A Literature Review. *The 8th World Academy of Nursing Sciences (WANS) Congress 2024.08.21 Lombok, Indonesia*
2. Kumiko Morita, Minako Kobayashi, Rieko Aoki, Akiko Sasaki, Nagamine Hitomi, Harumi Yamamoto, Kayo Maruyama, Ayami Odaira, Hiroko Sumita, Kayoko Ishii, Mika Hoki, Fumi Ohtake. Relationship between frailty and generativity among older adults in senior residences. *UTNIC2024 2024.07.05 Tokyo, Japan*
3. Kayoko Ishii, Kumiko Morita. Workers' perceptions of their health status and behavioral changes. *UTNIC2024 2024.07.05 Tokyo, Japan*
4. Harumi Yamamoto, Kumiko Morita. Analysis of Motivational Interviewing Approaches in Student's Sleep and Future Challenges. *UTNIC2024 2024.07.05 Tokyo, Japan*
5. 塩満智子 月野木ルミ 中村睦美 KIM JIHOON 川原瑞希 宮崎祐介 倉元昭季 藪上楓 鍵直樹 海塩渉 村上義孝 中田由夫. テレワーク労働者の運動機能向上を目指した 多要素改善プログラムの検討. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.02
6. 川原瑞希, 月野木ルミ, 宮松直美, 久保佐智美, 久保田芳美, 東山綾, 平田あや, 桑原和代, 清原麻衣子, 杉山大典, 岡村智教. 健康的な一般都市住民における 8 年間の Na/K 比推移と特徴: 神戸研究. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.01
1. 丸山佳代, 大平綾美, 山本晴美, 小林美奈子, 青木利江子, 永嶺仁美, 佐々木明子, 大竹文, 森田久美子. シニアレジデンス入居者と看護大学生との世代間交流の効果と課題. *日本世代間交流学会第 15 回全国大会 2024.12.22*
2. 中田由夫, 金森悟, 吉本隆彦, 月野木ルミ, 鍵直樹, 海塩渉, 塩満智子, 和田彩, 吉葉かおり, 甲斐裕子. テレワーカーの身体活動, 筋骨格系健康, 職場環境改善に向けた介入試験: 研究デザイン. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30 北海道
3. 月野木ルミ, 市川さくら. 健診習慣のない子育て世代の被扶養者女性への「20 歳からの健康診査」受診促進方法. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30 北海道
4. 月野木ルミ, 北原多映子. 乳幼児親子の地域の居場所の継続的利用に向けた子育て支援拠点のスタッフによる工夫. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30 北海道
5. 森田久美子, 丸山佳代, 大平綾美, 山本晴美, 保木みか, 角田紘子, 石井佳代子, 大竹文, 永嶺仁美, 小林美奈子, 青木利江子, 佐々木明子. シニアレジデンス入居者の気分プロフィール (POMS 2) の評価と関連要因. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30 札幌

6. 川原 瑞希、月野木ルミ、宮松 直美、久保 佐智美、久保田 芳美、東山 綾、平田 あや、桑原 和代、西田陽子、平田 匠、宮崎 潤二、杉山大典、宮本 恵宏、岡村 智教. 8年追跡調査による、高血圧や循環器疾患、がん既往のない日本の都市住民における尿中 Na/K 比変化と血圧変化との関連: 神戸研究. 第 46 回日本高血圧学会総会 2024.10.12 福岡県福岡市
7. 川原 瑞希、月野木 ルミ、宮松 直美、久保 佐智美、久保田 芳美、東山 綾、平田 あや、桑原 和代、平田 匠、宮崎 潤二、宮本 恵宏、岡村 智教. 8年追跡調査による、高血圧や循環器疾患、がん既往のない日本の都市住民における尿中 Na/K 比変化と血圧変化との関連: 神戸研究. 第 46 回日本高血圧学会総会 2024.10.11
8. 大平 綾美、森田 久美子. 地域在住高齢者における SNS の利用と精神的健康との関連. ヘルスコミュニケーションウィークプログラム・抄録集 2024.09.01
9. 塩満 智子、高野 愛紗、水島 諒子、KIM JIHOON、河邊 優、中村 睦美、川原 瑞希、中田 由夫、月野木 ルミ. テレワーク労働者における身体活動の促進要因: フォーカスグループインタビュー. 第 94 回日本衛生学会学術総会 2024.03.09 鹿児島県
10. 塩満 智子、高野 愛紗、水島 諒子、KIM JIHOON、河邊 優、中村 睦美、川原 瑞希、中田 由夫、月野木 ルミ. . テレワーク労働者における身体活動の促進要因: フォーカスグループインタビュー. 第 94 回日本衛生学会学術総会 2024.03.09 鹿児島県鹿児島市
11. 塩満 智子、高野 愛紗、水島 諒子、キム・ジフン、河邊 優、中村 睦美、川原 瑞希、中田 由夫、月野木 ルミ. テレワーク労働者における身体活動の促進要因 フォーカスグループインタビュー. 日本衛生学雑誌 2024.03.01
12. 塩満 智子 高野 愛紗 水島 諒子 KIM JIHOON 河邊 優 中村 睦美 川原 瑞希 中田 由夫 月野木 ルミ. テレワーク労働者における身体活動の促進要因: フォーカスグループインタビュー. 日本衛生学会 2024.03 鹿児島
13. 塩満智子、月野木ルミ、中村睦美、KIM JIHOON、川原瑞希、宮崎祐介、藪上楓、鍵直樹、海塩渉、村上義孝、中田由夫. テレワーク労働者の運動機能向上を目指した多要素改善プログラムの検討. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.01 滋賀県
14. 川原瑞希、月野木ルミ、宮松直美、久保佐智美、久保田芳美、東山綾、平田あや、桑原和代、清原麻衣子、杉山大典、岡村智教. 健康な一般都市住民における 6 年間の Na/K 比推移と特徴: 神戸研究. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.01 滋賀県
15. 巽夕起、片岡葵、河邊優、月野木ルミ、伊藤ゆり. 発達障がい児への言葉による虐待の判断に関連する要因の検討: 全国自治体実態調査. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.01 滋賀県
16. 塩満智子、月野木ルミ、中村睦美、KIM JIHOON、川原瑞希、宮崎祐介、倉元昭季、藪上楓、鍵直樹、海塩渉、村上義孝、中田由夫. テレワーク労働者の運動機能向上を目指した多要素改善プログラムの検討. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.01 滋賀県
17. 塩満 智子、月野木 ルミ、中村 睦美、Kim Jihoon、川原 瑞希、宮崎 祐介、倉元 昭季、藪上 楓、鍵 直樹、海塩 渉、村上 義孝、中田 由夫. テレワーク労働者の運動機能向上を目指した多要素改善プログラムの検討. Journal of Epidemiology 2024.01.01
18. 川原 瑞希、月野木 ルミ、宮松 直美、久保 佐智美、久保田 芳美、東山 綾、平田 あや、桑原 和代、清原 麻衣子、杉山 大典、岡村 智教. 健康な一般集団における 6 年間の Na/K 比推移区分別の特徴 神戸研究. Journal of Epidemiology 2024.01.01
19. 巽 夕起、片岡 葵、河邊 優、伊藤 ゆり、月野木 ルミ. 発達障がい児への言葉による虐待の判断に関連する要因の検討 全国自治体実態調査. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.01 滋賀県

## [その他業績]

1. 食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業 分担研究者、月野木ルミ、2024 年  
2020 年からの継続事業 日本高血圧学会が中心となって専門家を集結し、尿中ナトリウム・カリウム測定による減塩・カリウム摂取増加のための保健指導および食環境整備の手法を開発する。さらに開発した手法を、本学会が推進する「高血圧ゼロのまち」参加自治体や企業従業員の大規模集団において実践し、食行動変容への効果を実証する。  
2023—2024 年度は簡易保健指導のマニュアル作成、動画作成を担当し、保健指導スタッフ向けに公開した。

2. 厚生労働省 地域健康政策推進のためのプラットフォーム作成等事業, 2024 年  
e健康づくりネット HP 監修  
学習指導教材 監修  
2023-2024
3. いるだけで健康になれる街づくり, 2024 年 05 月  
野村不動産と東京医科歯科大学が、「いる（住む・来る）だけで健康になる街づくり」に向けた共同研究を産学連携で開始する。同大学が保有する土地の有効活用に向け、住宅・商業施設・オフィスの開発や運営ノウハウを持つ野村不動産グループと進めているもので、今年 3 月に事業契約を締結した。

街づくりの主眼に置くのは”健康”で、事業コンセプトは「トータルヘルスケア for All Generations ～全世代の未病予防、健康維持・増進に取り組み、QOL 向上に寄与する街づくり～」。分譲マンション、賃貸シニアレジデンス、商業施設、医療施設、学童保育施設の設置のほか多世代交流が可能な街づくりを目指し、これまで検討を進めてきた。共同研究では、健康増進型賃貸住宅に入居する高齢者と若者との世代間交流の効果検証や、テレワーカーの身体活動向上を目指したオンライン型の生活習慣改善プログラムの開発に取り組む。開発地は東京都江東区越中島、敷地面積は 17,967.21 m<sup>2</sup>。

4. 第 29 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会実行委員 川原瑞希, 2024 年 10 月
5. 第 29 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会査読委員 川原瑞希, 2024 年 10 月
6. 第 17 回品川子育てメッセ 2024 協賛出展, 月野木ルミ, 2024 年 11 月  
品川区における生活習慣病健診の受診啓発活動推進

#### [社会貢献活動]

1. お茶の水看護学研究会 編集委員, 森田久美子, 2010 年 04 月 - 現在
2. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 森田久美子, 2010 年 04 月 - 現在
3. 日本在宅ケア学会 査読委員, 森田久美子, 2012 年 - 現在
4. 日本公衆衛生学会 モニタリングレポート委員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2014 年 04 月 01 日 - 2026 年 04 月 01 日
5. 日本看護科学学会 査読委員, 森田久美子, 2015 年 - 現在
6. 日本世代間交流学会 編集委員, 森田久美子, 2015 年 01 月 - 現在
7. 日本地域看護学会 査読委員, 森田久美子, 2016 年 - 現在
8. 品川子育てメッセ 2018-2022 協賛, 月野木ルミ, 2018 年 10 月 30 日 - 現在
9. 日本看護科学学会 英文誌編集委員, 月野木ルミ, 2019 年 07 月 11 日 - 2025 年 06 月 30 日
10. Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 査読委員, 月野木ルミ, Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 2020 年 - 現在
11. International Journal of Environmental Research and Public Health reviewer, 月野木ルミ, International Journal of Environmental Research and Public Health, 2020 年 - 現在
12. Journal of occupational Health reviewer, 月野木ルミ, 2020 年 - 現在
13. お茶の水看護雑誌 編集委員, 月野木ルミ, 2021 年 - 現在
14. 日本公衆衛生学会 代議員, 月野木ルミ, 2021 年 07 月 01 日 - 2025 年 06 月 30 日
15. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021 年 08 月 18 日 - 現在
16. 日本看護科学学会 和文誌査読委員, 月野木ルミ, 2021 年 09 月 07 日 - 2026 年 09 月 06 日
17. 日本疫学会 疫学研究推進ワーキンググループ委員, 月野木ルミ, 2022 年 01 月 - 2026 年 01 月 31 日

18. EAFONS 査読委員, 月野木ルミ, EAFONS, 2023年 - 2024年
19. 日本産業衛生学会 編集委員, 月野木ルミ, 日本産業衛生学会, 2023年03月 - 2026年02月
20. Environmental and Occupational Health Practice Associate Editor, 月野木ルミ, Environmental and Occupational Health Practice, 2023年03月 - 2026年02月
21. 日本世代間交流学会 理事, 森田久美子, 2023年04月 - 現在
22. 第34回日本疫学会運営委員会委員, 月野木ルミ, 一般社団法人日本疫学会, 第34回日本疫学会, 2023年04月30日 - 2024年02月29日
23. 日本疫学会 評議員, 月野木ルミ, 一般社団法人日本疫学会, 2023年06月29日 - 2025年06月30日
24. 日本公衆衛生学会 評議員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2023年07月01日 - 2025年06月30日
25. 日本在宅ケア学会 在宅ケアイノベーション研究研修会委員, 森田久美子, 2024年07月27日 - 現在

## 成人看護学分野

### Adult Health Nursing

教授	田中 真琴
准教授	川上 明希
助教 (医学部内講師)	川本 祐子
大学院生	畑中 佳子
	藤田 和寿
	岩下 絵梨香
	大脇 那奈
	八鍬 類子
	堀田 宗一郎
	小田 清花
	野澤 美奈
	清水 理恵
	大嶋 さくら
	若井 さやか

#### (1) 分野概要

近年のめざましい医療技術の発展に伴い、高度医療によって救命や延命される機会が向上しました。また、難治性の慢性疾患に関しても、新しい治療法の開発が進んでおり先端医療の恩恵を受ける人々も増えています。成人看護学分野では、このような状況下にある患者や家族の苦痛等を緩和し、安全安楽にその人らしく生活できるよう支援するために、また病気とうまく付き合っていけるよう支援するために、重篤期から回復期、セルフマネジメントに至るまで、さらには緩和ケアを含めた専門的看護のあり方と看護支援方法に関する教育や研究を行っています。

#### (2) 研究活動

研究については、以下の2つの主要なテーマについて取り組んでいます。

【慢性的な健康問題を抱える患者および家族の主体的療養を促進するための研究】

慢性疾患を抱え不確かさを感じながら療養する患者や家族が、主体的に症状や生活をマネジメントしていけるよう、様々な視点からの研究に取り組んでいます。自己管理行動の阻害要因と促進要因の解明、受容や意思決定のプロセスの構造化、自己管理の実態やそれが疾患管理に与える影響の調査などを行っています。

【先端・高度医療を受ける患者および家族に対する看護ケアの開発】

疾病や外傷、侵襲的治療によって生命危機状況にある患者の治療に伴う苦痛や不安を緩和し、患者や家族のQOL向上を目指した様々な視点からの研究に取り組んでいます。また、侵襲的治療下にある患者について、療養プロセスにおける体験を構造化することや、治療成功・回復促進に関与する患者要因の探索、患者の治療や看護に携わる医療チームの連携や機能等に関する調査などを行っています。

#### (3) 教育活動

教育については、学部教育では成人看護学を担当しています。2年次では、講義を中心として成人期にある人々の理解と必要な看護の原則について教授しています。3年次前期では、シミュレーションを取り入れた演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合を行い、3年次後期には、本学病院の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとに成人看護学実習を展開しています。また当分野での卒業研究を選択した学生については、学生の知的的好奇

心を大いに刺激しつつ指導に当たっています。

大学院教育では、当分野の研究指導は、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、学位論文として当該領域の発展に寄与する研究となるよう、ゼミと個別指導を効果的に組み合わせて実施しています。成人領域における看護の専門性の追求と発展を目指した教育、研究指導を行っています。

#### (4) 研究業績

##### [原著]

1. Hotta S, Ashida K, Tanaka M. Development of a scale to assess nurses' difficulties in collaborating with physicians in responding to clinical deterioration during night shifts. *Japan journal of nursing science : JJNS*. 2024.09; e12622
2. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Tomoko Terai, Hiroaki Ito. Influence of multidisciplinary team care with abundant nurse staffing on patient-reported outcomes among patients with inflammatory bowel disease in clinical remission. *Health Qual Life Outcomes*. 2024.06; 22(1); 44
3. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Tomoko Terai, Jovelle Fernandez, Laurie Keefer, Hiroaki Ito. Development and validation of a 13-item short version of the inflammatory bowel disease self-efficacy scale. *BMC Gastroenterol*. 2024.05; 24(1); 190
4. Sumika Oda, Aki Kawakami, Kaoru Ashida, Makoto Tanaka. Death Rattle: Palliative Nursing Practices Delphi Study *BMJ Supportive & Palliative Care*. 2024.04;
5. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Hiroaki Ito. Dietary Perceptions among Patients with Crohn's Disease in Clinical Remission: Comparison with an Era Preceding the Availability of Biologic Therapy. *Inflamm Intest Dis*. 2024; 9(1); 47-54
6. Sumika Oda, Aki Kawakami, Kaoru Ashida, Makoto Tanaka. Death Rattle: Palliative Nursing Practices Delphi Study *BMJ Supportive & Palliative Care*. 2024;
7. Hotta S, Ashida K, Tanaka M. Night Physician-Nurse Collaboration: Developing the Scale of Physicians' Difficulties and Exploring Related Factors in Acute Care Hospitals. *Journal of multidisciplinary healthcare*. 2024; 17; 2831-2845
8. Keiko Hatanaka, Yoshiko Sasaki, Makoto Tanaka. Adjusting to Living with Chronic Liver Disease Among Patients Who Continue Regular Healthcare Visits for Hepatocellular Carcinoma Surveillance : A Grounded Theory Study *Japan Journal of Nursing Science*. 2024; (in press);

##### [書籍等出版物]

1. 川本祐子（分担執筆）、富岡洋海、宮崎泰成（編集）. 奨励から学ぶ「過敏性肺炎診断指針」の使い方. 南山堂, 2024.03

##### [総説]

1. 川本 祐子. 希少疾患の診断や治療の発展に向けたビッグデータ活用の可能性と課題 *社会保障研究*. 2024.06; 9(1); 90-99

##### [講演・口頭発表等]

1. 川上明希, 田中真琴, 阪上佳誉子, 伊藤裕章. 炎症性腸疾患患者による電話相談時の状況および対応指示に関する1施設調査: 体調悪化での相談に着目して. 第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京
2. 清水理恵, 田中真琴, 川上明希. 医療者対象のがん遺伝子パネル検査における患者家族への支援: インタビュー調査. 第62回日本癌治療学会学術集会 2024.10.25 福岡
3. Sumika Oda, Aki Kawakami, Kaoru Ashida, Makoto Tanaka. Nursing care practices for patients with a death rattle and their families: A Delphi study. *the 13th World Research Congress of the European Association for Palliative Care : EAPC2024* 2024.05.17

4. Sayaka Wakai, Mina Nozawa, Simona Fourie, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Providing sexual well-being support to patients with inflammatory bowel disease: Analyzing the perspective of nurses. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024.03.06
5. Momoko Takai, Makoto Tanaka, Sayaka Wakai, Kayoko Sakagami, Hiroaki Ito. Related factors of fatigue in patients with inflammatory bowel disease in Japan. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024.03.06
6. Momoka Kojima, Aki Kawakami, Yuko Kawamoto, Nana Owaki, Makoto Tanaka. Difficulties Endured by Nurses in Their First 1–3 Years of Employment in Caring for Patients with Delirium. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024.03.06
7. Mina Nozawa, Soichiro Hotta, Makoto Tanaka. Actual status of pre-discharge knowledge among hospitalized patients with heart failure: a scoping review. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024.03.06 Hong Kong
8. Yuko Kawamoto, Sumika Oda. Evaluation of antigen exposure/avoidance in patients with hypersensitivity pneumonitis: A scoping review. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2024.03.06 Hong Kong
9. Sayaka Wakai, Mina Nozawa, Simona Fourie, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Providing sexual well-being support to patients with inflammatory bowel disease: Analyzing the perspective of nurses. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024.03.06
10. Momoko Takai, Makoto Tanaka, Kayoko Sakagami, Hiroaki Ito. Fatigue in Japanese patients with Inflammatory Bowel Disease: a comparative study based on a systematic review. The 19th Europe Crohn's and Colitis Organization 2024.02.23
11. Mina Nozawa, Sayaka Wakai, Simona Fourie, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Nurses' difficulties in supporting the sexual well-being of patients with inflammatory bowel disease. The 19th Europe Crohn's and Colitis Organization 2024.02.23
12. Sayaka Wakai, Makoto Tanaka, Momoko Takai, Kayoko Sakagami, Hiroaki Ito.. Sexual satisfaction and its associated factors among patients with inflammatory bowel disease in Japan. The 19th Europe Crohn's and Colitis Organization 2024.02.23
1. 若井さやか, 野澤美奈, Fourie Simona, 川上明希, 田中真琴. 炎症性腸疾患患者への Sexual well-being 支援 : 看護師の実践内容に関する質的研究. 第 15 回炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16
2. 田中真琴, 若井さやか, 野澤美奈, Fourie Simona, 川上明希. 炎症性腸疾患患者の Sexual well-being に関する悩み・不安 : 看護師へのインタビュー調査. 第 15 回 日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16

### [社会貢献活動]

1. お茶の水会看護同窓会, 2002 年 04 月 - 現在
2. 日本慢性看護学会 編集委員会委員, 2010 年 04 月 01 日 - 現在
3. 日本慢性看護学会 評議員, 2012 年 04 月 01 日 - 現在
4. 一般社団法人受療者医療保険学術連合会 広報委員会, 2013 年 08 月 21 日 - 現在
5. 四大学平成卒業生の会連合会, 2014 年 06 月 - 現在
6. 日本看護科学学会 査読委員, 2015 年 10 月 01 日 - 現在
7. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子, 田中真琴, 森田久美子, 山崎智子, 高野歩, 今津陽子, 三隅順子, 廣山奈津子, 栗林一人, 野口綾子) , 2021 年 08 月 18 日 - 現在

## 精神保健看護学分野

### Mental Health and Psychiatric Nursing

教授	谷口麻希
准教授	松長麻美
技術支援員	小竹理紗
	雄川直美 (2024年8月～)
	瀬戸菜月 (2024年8月～)
事務支援員	堀田祐子 (～2024年6月)
	丸山亜希子
大学院生 (博士後期)	高濱圭子
5年一貫博士課程	富川明子
	栗原淳子
	平岩千明
	及川江利奈
	奈良麻結
	知花文香
	平谷七美
	羽田彩子
研究生	Wang Jingyi (2024年1月～)

#### (1) 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルヘルス支援の必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神障害者の地域移行を進めるための具体的方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。(学部・大学院教育)

#### (2) 研究活動

本研究分野の主な研究テーマは、精神保健における多職種連携、メンタルヘルスの社会的決定要因、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援および予防的アプローチ、周産期メンタルヘルス、外国人のメンタルヘルス、精神疾患患者とその家族のケア、精神疾患患者の退院および地域生活促進、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究等である。

1. 地域精神保健における多職種連携
2. メンタルヘルスの社会的決定要因 (社会経済的要因、スティグマ等)
3. メンタルヘルスへのライフコースアプローチ (幼少期のトラウマ体験、周産期メンタルヘルス等)
4. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
5. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究
6. グローバルメンタルヘルス

### (3) 教育活動

当分野では、精神保健と精神看護、双方の視点からあらゆる人の精神的健康の維持・向上を支援するための理念および実践方法について教育を行っている。また、新たな時代のニーズに応える精神看護学の研究の発展に貢献できる研究者の人材育成に力を入れている。

#### 1) 学部教育

1. 心の健康と看護Ⅰでは、精神看護実践の前提となる、精神疾患の病態、精神科診断学、治療学等の精神医学の基礎知識を習得する。司法精神医療等、精神医療の関連領域における治療の理論や方法について理解する。精神医療・精神保健福祉における法律、制度、施策に関する知識を習得し、わが国における課題について考察する。これらの内容を看護学の視点から再考し、看護職の役割や看護援助への活用について考察する。

2. 心の健康と看護Ⅱでは、様々な精神的健康問題に関する社会状況と支援方法について理解する。地域で生活する精神障害を有する人の健康や生活の質の向上を支援するために必要な社会資源に関する基礎知識を習得する。精神保健医療福祉システムの中で看護職が担う役割について考察する。

3. 精神看護学演習では、演習を通じて精神看護の実践に必要な援助の理論と方法を習得する。精神障害を有する人における精神疾患と生活障害との関連について、セルフケアモデルやストレングスモデルによりアセスメントし、必要な看護援助を考案する。援助的な対人関係を構築する技術を身につけ、精神障害を有する人の回復、成長、自立を支援するための知識と技術を身につける。グループワークを通して、他者と協働して学習する能力を養う。

4. 精神看護学実習は、精神障害者に対する理解を深め、自己理解および対人関係を構築、発展させるプロセスを通して、精神看護実践の基本的能力を修得する。地域施設において、地域で生活する精神障害者の社会参加の実態にふれることを通じて、精神障害と生活状況との関連についての理解を深めながら、精神障害者の地域生活支援の方法について学ぶ。また、精神障害者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて看護師が担うべき役割について学修する。

#### 2) 大学院教育

1. コンサルテーション論では、看護師の問題解決に必要なコンサルテーションの概念および実践モデルを理解し、高度な看護実践におけるコンサルテーション活動を展開するための基礎能力を養う。

2. 精神保健看護学特論Ⅰでは、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組み、ならびに様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について学修する。精神医学的診断法や心理測定法、精神療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法についての理解を深め、看護学の視点に基づく評価と援助を実践する能力を養う。

3. 精神保健看護学演習Ⅰでは、精神保健看護学に関する研究のクリティークを通し、精神保健看護学分野における研究の動向や課題について理解を深める。

4. 精神保健看護学特論Ⅱでは、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得する。精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究ができる能力を修得する。

### (4) 研究業績

#### [原著]

1. Sawada U., Matsunaga A., Taneda A., Sasaki N., Yamaguchi S.. Perspectives of people with schizophrenia on clinical outcome scales and patient-reported outcome measures: a qualitative study BMC Psychiatry. 2024.11; 24(1); 861
2. Fukasawa, M; Taniguchi, MU; Akiyama, T; Horikoshi, N; Yasumura, S; Yabe, H; Suzuki, Y; Bromet, EJ; Kawakami, N. Social networks and posttraumatic stress symptoms five to ten years after the Fukushima nuclear power plant disaster SOCIAL SCIENCE & MEDICINE. 2024.09; 357;
3. Yamaguchi S, Usui K, Iwanaga M, Kawaguchi T, Hada A, Yoshida K, Nishio M, Yanata H, Watanabe M, Taniguchi K, Aoki H, Hisajima Y, Sato S, Fujii C.. 10-year outcome trajectories of people with mental

illness and their families who receive services from multidisciplinary case management and outreach teams: protocol of a multisite longitudinal study *BMJ Open*. 2024.08;

4. Kitamura, T., Hada, A., Usui, Y., & Ohashi, Y.. Development of the Japanese version of the test of self-conscious affect-3 (TOSCA-3): A study among student and parent population *Behavioral Sciences*. 2024.07;
5. Yasuma, N; Sato, S; Yamaguchi, S; Matsunaga, A; Shiozawa, T; Tachimori, H; Watanabe, K; Imamura, K; Nishi, D; Fujii, C; Kawakami, N. Effects of brief family psychoeducation on family caregiver burden of people with schizophrenia provided by psychiatric visiting nurses: a cluster randomised controlled trial *BMC PSYCHIATRY*. 2024.06; 24(1); 445
6. Hada, A., Ohashi, Y., Usui, Y., & Kitamura, T.. Typology of Parent-to-Child Emotions: A Study of Japanese Parents of a Foetus up to a 12-Year-Old Child Healthcare. 2024.04; 12(9); 881
7. Iida, M; Sawada, U; Usuda, K; Hazumi, M; Okazaki, E; Ogura, K; Kataoka, M; Sasaki, N; Ojio, Y; Matsunaga, A; Umemoto, I; Makino, M; Nakashita, A; Kamikawa, C; Kuroda, N; Kuga, H; Fujii, C; Nishi, D. Effects of the Mental Health Supporter Training Program on mental health-related public stigma among Japanese people: A pretest/posttest study *PSYCHIATRY AND CLINICAL NEUROSCIENCES REPORTS*. 2024.03; 3(1); e176
8. Hada, A., Usui, Y., Ohashi, Y., & Kitamura, T.. Adaptation of the CAD Scale to Japanese Parents: The Domains for Moral Violations in the CAD Triad Hypothesis *Psychology*. 2024.01; 15; 58-76
9. Ayumi Takano, Chiaki Hiraiwa, Erina Oikawa, Akiko Tomikawa, Kyosuke Nozawa. Validity and reliability of the Japanese version of the Substance Use Stigma Mechanism Scale. *PLoS One*. 2024; 19(10); e0310514
1. 谷口麻希, 遠藤佑子, 渡邊竹美, 鎌田奈津, 越智真奈美, 玉木敦子, 清野仁美, 工藤美子. メンタルヘルスニーズを有する妊婦への看護実践と多職種連携: 産科外来に勤務する看護職へのインタビュー調査 *日本周産期メンタルヘルス学会誌*. 2024.08; 10(1); 77-83
2. 廣田美里, 谷口(梅田)麻希, 千葉理恵, 林佑太, 木戸芳史, 彼谷哲志, 藤井清文. 障害福祉サービスを利用する統合失調症を有する人の身体科治療に関する経験と認識: 当事者へのインタビュー分析から *精神障害とりハビリテーション*. 2024.06; 28(1); 69-76
3. 松長 麻美. 【総合病院で遭遇する精神科・精神医療に対するスティグマをどう解決したらいいか-長期的観点から-】周産期メンタルヘルス支援におけるスティグマを考える *精神神経学雑誌*. 2024.06; 126(6); 399-406
4. 築田 誠, 谷口 麻希, 竹村 和子, 本田 順子, 森本 雅和, 塩見 美抄. 2 型糖尿病に関する食生活行動調査からのポピュレーションアプローチに向けたセグメンテーションの検討 *Phenomena in Nursing*. 2024.01; 7(1); R1-R9

### [書籍等出版物]

1. 松長麻美. 精神看護学概論. 理工図書出版, 2024.01 (ISBN : 978-4-8446-0938-4)

### [総説]

1. 松長麻美. 繋がっていく「場」としての学会 *日本社会精神医学会雑誌*. 2024.05; 33(2); 115-116
2. 竹村 和子, 浅野 いずみ, 高橋 美沙子, 黒田 友子, 谷口 麻希. 第 12 回公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ 「どうしてる? どうすればいい? 外国人住民とのコミュニケーション」開催報告 *兵庫県立大学地域ケア開発研究所研究活動報告集*. 2024.03; 9; 36-39
3. 本田 順子, 谷口 麻希, 塩見 美抄, 竹村 和子, 築田 誠. 糖尿病予防に関するポピュレーションアプローチの先駆的事例分析 *Phenomena in Nursing*. 2024.01; 7(1); G1-G8

### [講演・口頭発表等]

1. Nishi D., Ito Y., Sasaki N., Watanabe K., Matsunaga A., Imamura K.. Prevention of Perinatal Depression symptoms Using Online Peer Community and Metaverse Peer Support: a protocol for a pilot trial. *The International Marce Society for Perinatal Mental Health Conference* 2024.09.01

1. 阿部真貴子, 奈良麻結, 羽田彩子, 松長麻美, 安間尚徳, 藤井千代. 精神科医療における生成 AI によるチャットボット活用: 入院者訪問支援員のための支援ツールの開発. 日本精神障害者リハビリテーション学会 第 31 回 東京お台場大会 2024.12.15
2. 北村俊則, 松長麻美, 齋藤知見. ボンディング障害一偏見のない理解に向けてー. 第 8 回日本産前産後ケア・子育て支援学会 2024.11.04
3. 奈良麻結, 山口創生, 森山葉子, 岡田隆志, 白田謙太郎, 白井香, 黒田直明. 精神障害当事者における日本語版 ASCOT SCT4 の妥当性・信頼性の検証. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.31 北海道
4. 三宅美智, 奈良麻結. 厚生労働省科学研究費補助金による研究の紹介: 精神科医療機関における行動制限最小化の普及に資する研究 (協会企画). 第 32 回日本精神科看護専門学術集会 2024.10.27 福島
5. 谷口麻希. 家族のこころと日本の社会: 地域疫学研究の先にあるものを探して. 東京医科歯科大学 Blue Bird セミナー 2024.07.17 東京 (オンライン)
6. 谷口麻希, 岩崎美奈子, 古川恵美. 乳児院・児童養護施設、フォスタリング機関における里親健康支援: 全国調査から見た現状と課題. 日本子ども家庭福祉学会第 25 回全国大会 2024.06.30 東京
7. 玉木 敦子, 市川 久美子, 蒲池 あずさ, 後藤 りか, 高橋 秋絵, 谷口 麻希, 松岡 裕美, 松長 麻美, 山田 顕子, 山田 恭子. 精神疾患をもつ妊産婦に看護職はどう関わればよいのか セルフケアモデルに基づいて支援を考えてみよう. 日本精神保健看護学会学術集会 2024.06.01
8. 奈良麻結, 松長麻美, 高野歩, 谷口麻希. 精神疾患を有する人々における非自発的入院中の医療スタッフとの治療的関係とセルフスティグマに関する研究: 横断研究. 第 42 回日本社会精神医学会 2024.03.14 宮城

#### [社会貢献活動]

1. 一般財団法人 こころのバリアフリー研究会 評議員 (松長麻美), 2013 年 - 現在
2. 日本看護科学学会英文誌編集委員会 編集委員 (谷口麻希), 2015 年 09 月 20 日 - 現在
3. 日本精神障害者リハビリテーション学会 研修委員 (松長麻美), 2016 年 - 現在
4. 日本公衆衛生学会 国際化推進委員会 委員 (谷口麻希), 2019 年 11 月 01 日 - 現在
5. 日本社会精神医学会 多職種協働委員 (松長麻美), 2020 年 - 現在
6. 日本公衆衛生学会 日本公衆衛生雑誌査読委員 (谷口麻希), 2021 年 04 月 01 日 - 現在
7. NPO 法人アジア女性自立プロジェクト 理事 (谷口麻希), 2021 年 05 月 29 日 - 現在
8. 日本看護科学学会 表彰委員会 委員 (谷口麻希), 2021 年 07 月 16 日 - 現在
9. お茶の水看護学研究会 編集委員 (松長麻美), 2022 年 - 現在
10. 日本社会精神医学会雑誌 査読委員 (松長麻美), 2022 年 - 現在
11. 周産期メンタルヘルス学会 評議員 (谷口麻希), 2022 年 01 月 31 日 - 現在
12. 一般財団法人北村メンタルヘルス学術振興財団 理事 (松長麻美), 2022 年 06 月 - 現在
13. 日本公衆衛生学会 代議員 (谷口麻希), 2023 年 07 月 01 日 - 現在
14. 独立行政法人国際協力機構 トルコにおける地震被災地域の心理社会的支援に係る国内支援委員会 委員 (谷口麻希), 2023 年 07 月 01 日 - 現在
15. 日本社会精神医学会 評議員 (松長麻美), 2023 年 09 月 - 現在
16. 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 (松長麻美), 2023 年 10 月 - 現在
17. 日本精神障害者リハビリテーション学会 選挙管理委員会 委員長 (松長麻美), 2023 年 10 月 31 日 - 2024 年 03 月 31 日
18. 日本公衆衛生学会 日本公衆衛生学会誌 編集委員 (谷口麻希), 2024 年 01 月 01 日 - 現在
19. 国立研究開発法人国立成育医療研究センター特別講義 (谷口麻希), 2024 年 02 月 29 日
20. 第 43 回社会精神医学会 プログラム委員 (松長麻美), 2024 年 05 月 - 現在
21. 日本精神障害者リハビリテーション学会 研究実践委員 (松長麻美), 2024 年 09 月 - 現在

## 小児・家族発達看護学分野

### Child and Family Nursing

准教授	岡光	基子
助教	矢郷	哲志
技術補佐員	厚美	彰子
大学院生	勝本	祥子
大学院生	朝見	優子
大学院生	佐藤	文敬
大学院生	鈴木	嘉代子
大学院生	松崎	愛

#### (1) 分野概要

当分野では、小児看護学に関する教育と研究を行っている。

学部教育では、Life-span Development の視点から、小児とその家族、そしてそれらを取り巻く環境を理解し、自ら考え、より良い看護のあり方を考案することができる実践家の育成に努めている。

大学院教育では、乳幼児精神保健に関する専門的知識とスキルを持ち、小児看護の発展に寄与しうる研究者や実践家の育成に取り組んでいる。

研究においては、乳幼児精神保健を基盤とし、親子の健やかな発達と Well-being を促すことを目指し、乳幼児とその家族に対する育児支援システムの構築を主要なテーマとして取り組み、研究成果を報告している。

また、Family Partnership Model に基づく育児支援講習会を開催し、乳幼児とその家族に関わる専門職教育にも力を入れている。

#### (2) 研究活動

乳幼児精神保健を基盤とし、主に乳幼児の発達、親子の相互作用、乳幼児とその家族に対する早期育児支援介入に関する研究に取り組んでいる。

研究の主なテーマは、

- 1) 早産・低出生体重児、先天性疾患、慢性疾患、発達障害、女性受刑者の子どもなど、様々な背景をもつ乳幼児期の親子相互作用とその関連要因
- 2) 乳幼児精神保健の理論に基づく育児支援介入
- 3) ファミリーパートナーシップに基づく育児支援プログラム導入による介入効果の検証
- 4) 生後早期における父子の関係性支援介入
- 5) 周産期における母児エビゲノムの体系的解析
- 6) 幼児の社会—情緒的、行動上の問題に関するアセスメントツールの開発
- 7) 小児領域の看護師による倫理的実践の構造と教育プログラムの開発
- 8) 慢性疾患をもつ子どもと家族のための患者家族滞在施設の役割の検討
- 9) 子どもの問題行動と親のペアレンティングに焦点を当てたピア主導型育児支援プログラムの開発
- 10) 乳幼児と高齢者との世代間交流が乳幼児の発達に及ぼす影響などである。

国内外の研究施設と情報交換しながら研究活動を行い、5) においては、東京科学大学病院周産女性診療科、発達発達病態学分野、難治疾患研究所、国立健康・栄養研究所と共同研究を行っている。

### (3) 教育活動

#### 1) 学部教育

小児の健康と看護、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学演習、小児看護学実習、総合実習Ⅱ、卒業論文Ⅱの他、フィジカルアセスメント、インディペンデントスタディを担当している。卒業論文Ⅱにおいては、3名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口頭発表をするまでを指導した。また、歯学部口腔保健衛生学専攻の保健医療サービスの講義を担当した。

#### 2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論Ⅰ、小児家族発達看護学演習Ⅰ、特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、インディペンデントスタディ A・B および共通科目である家族看護学特論の他、成人看護学演習Ⅰと急性・重症患者フィジカルアセスメントの講義を担当した。

### (4) 臨床活動および学外活動

1 型糖尿病の患者・家族会 (東京わかまつ会) の運営に携わっている。

### (5) 研究業績

#### [総説]

1. 影山葉子, 矢郷哲志, 門間晶子, 野々山友, 加藤明美, 小林裕美, 目麻里子, 浅野みどり. 家族支援専門看護師の活動に関する実態調査 (第1報) —Web 調査報告— 家族看護学研究. 2024.09; 30;
2. 矢郷哲志, 岡光基子. 子どもと家族とともに歩む—医学・心理学との協働で看護の未来を拓く— 乳幼児医学・心理学研究. 2024.03; 32(2); 141-14

#### [講演・口頭発表等]

1. Shoko Katsumoto, Motoko Okamitsu, Satoshi Yago, Shintaro Iwata, Keisuke Ae, Keiko Hayakawa, Tsukasa Yonemoto, Tabu Gokita. Characteristics of Pain in Lower Extremities and Associated Factors in Young Adult Osteosarcoma Survivors. 6th Goba Adolescent and Young Adult Cancer Congress 2024.12.03
2. 佐藤文敬, 矢郷哲志, 岡光基子. 在宅で医療的ケア児を養育する父親のメンタルヘルス: 文献レビュー. 日本家族看護学会第31回学術集会 2024.09.14
3. Shio Tsuda, Hisae Nakatani, Motoko Okamitsu, Ayako Ninomiya. Educational Programs for Working Caregivers of Elderly Parents: A Literature Review. The 8th World Academy of Nursing Sciences (WANS) Congress 2024.08.21 Lombok, Indonesia
4. Kawamura A, Obuchi T, Koine F, Yago S, Omori T. Social and emotional characteristics of 1- to 2-year-olds differences by age in months and gender using J-ITSEA and comparison with U.S. data. International Public Health Conference 2024.03.21 Singapore
5. Suzuki K, Komoto K, Okamitsu M, Yago S, Okawa H, Sasaki A. Parenting support in the community based on infant mental health father-focused parent-child relationship support practices. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024.03.06 Hong Kong
6. Mtsuzaki A, Yago S, Suzuki K, Okamitsu M. Literature review on parent-child relationship-based interventions for female inmates who are pregnant or have infants. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024.03.06 Hong Kong
1. 浅野みどり, 影山葉子, 門間晶子, 加藤明美, 小林裕美, 目麻里子, 矢郷哲志, 野々山友, 小野美雪, 井上玲子, 荒木暁子. 家族看護のグッドプラクティスからエビデンス創出をめざして: アウトカムの明確化にむけて. 日本家族看護学会第31回学術集会 2024.09.14 神奈川

## [社会貢献活動]

1. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 会計監査（岡光基子），東京わかまつ会, 2016年04月01日 - 現在
2. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 運営スタッフ（矢郷哲志），2016年04月01日 - 現在
3. 日本体育大学 非常勤講師（岡光基子），2016年04月01日 - 現在
4. 日本乳幼児医学・心理学研究 査読委員（岡光基子），日本乳幼児医学・心理学会, 2016年04月01日 - 現在
5. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」DDユニットファミリーサポート保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師（岡光基子），東京医科歯科大学, 2016年07月20日 - 現在
6. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師（岡光基子），2017年09月28日 - 現在
7. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」DDユニットファミリーサポート 保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師（矢郷哲志），2017年09月28日 - 現在
8. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師（矢郷哲志），2017年09月28日 - 現在
9. 日本体育大学 特別講師（矢郷哲志），2018年04月01日 - 現在
10. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」（小児看護実践基盤コース）作成協力（矢郷哲志），日本小児看護学会, 2019年05月 - 現在
11. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」（小児看護実践基盤コース）講師（岡光基子），日本小児看護学会, 2019年05月22日 - 現在
12. 日本乳幼児医学・心理学会 理事、編集委員（岡光基子），日本乳幼児医学・心理学会, 2020年04月01日 - 現在
13. 一般社団法人日本家族看護学会 社会活動・政策委員会 委員（矢郷哲志），一般社団法人日本家族看護学会, 2022年06月11日 - 現在
14. 一般社団法人日本家族看護学会学会誌 査読委員（矢郷哲志），一般社団法人日本家族看護学会, 2022年10月01日 - 2024年08月31日
15. 日本看護倫理学会第17回大会 企画委員（岡光基子），2023年05月01日 - 2024年06月30日
16. 厚生労働大臣指定柔道整復師専科教員認定講習会 講師（矢郷哲志），公益社団法人全国柔道整復学校協会, 2023年06月01日 - 現在
17. 柔道整復師専科教員認定講習会 非常勤講師（岡光基子），公益社団法人全国柔道整復学校協会, 日本医学柔整鍼灸専門学校, 2023年06月10日 - 現在
18. KEIO SFC JOURNAL 慶應 SFC 学会 査読委員（岡光基子），慶應 SFC 学会, 2023年12月25日 - 現在
19. 日本乳幼児医学・心理学会 編集委員（矢郷哲志），2024年03月01日 - 現在
20. 日本乳幼児医学・心理学会 企画委員（矢郷哲志），2024年07月01日 - 現在
21. 日本乳幼児医学・心理学会 評議員（矢郷哲志），2024年11月01日 - 現在

# リプロダクティブヘルス看護学分野

## Reproductive Health Nursing

教授 松崎 政代  
准教授 小笹 由香  
助教 廣山 奈津子  
研究員 河田 里奈

大学院生  
博士 5 年一貫課程  
佐野 深雪  
佐藤 千鶴  
石田 徹  
今村 美聡  
戸田 あゆみ  
片岡 綾華  
川鍋 紗織  
人見 綾

事務支援員  
日置 章子  
山口 琴恵

### (1) 分野概要

2024 年、本分野は松崎政代教授、小笹由香准教授、廣山奈津子助教の 3 名体制で運営されました。松崎教授は主に助産学に関連する女性の健康に関する量的研究を行いました。小笹准教授は看護倫理および出生前診断に関する質的研究を主導し、日本看護倫理学会年次大会の大会長を務めました。廣山助教は性被害、暴力、およびその支援者のサポートに関する研究を行い、新たに性暴力予防のためのバイスタンダー介入に注力し始めました。

本分野では、3 名の教員がそれぞれの視点から、性と生殖に関する健康と権利に焦点を当て、看護学、助産学、女性学の観点から研究および教育を展開しています。また、国内外での講演活動や研究発表を学生と共に行っています。

学部教育においては、看護師国家試験受験資格に必須の周産期看護学の講義、演習、実習、卒業論文を担当しており、助産学進学希望の学生には積極的に進路のアドバイスをを行っています。

### (2) 研究活動

女性が心身ともに健康な生活を送ることを目標に、以下の研究を行っている。

女性特有の疾患や症状の解明と支援方法を確立（松崎）、  
就労女性のライフサイクルに合わせた健康維持の方法の解明（松崎）  
母乳育児支援に係る研究（松崎）  
NIPT など、出生前検査に関わる看護職向け教育コンテンツの開発（小笹）  
看護基礎教育における、出生前検査に関する教育手法の確立（小笹）、  
性暴力被害者のためのワンストップ支援センターに関する研究（廣山）  
性暴力予防のためのバイスタンダー介入（廣山）

研究手法は、質的研究（内容分析）、調査票を用いた量的研究（尺度開発、SEM、混合効果モデル）。血液などのサンプルを用いた生化学的な研究も行っている。

### (3) 教育活動

2024年、大学院には博士5年一貫課程の8名の学生が在籍した。また学部生は6名が卒論を提出した。大学院生と卒論生は別のゼミで隔週で研究の進捗報告をおこない、その中で研究を進めている。また、大学院生は、ジャーナルの読解と批評的吟味をそれぞれ担当し、興味ある論文についてディスカッションを行っている。この中で、学位審査の際の発表会での発表と質疑応答のトレーニングを行っている。

### (4) 教育方針

モットーは、真剣に、楽しく、臆せず、教員も学生も協力しながらチームとして研究を行う事であり、それが可能な学生を求めている。

教育においても、ゼミや研究面談での議論を大切に、TAやRAをしながら研究、教育への関心を持ってもらい、その後のキャリア形成につなげるようにしている。

### (5) 臨床活動および学外活動

教員は、それぞれの研究テーマに合わせた臨床現場での活動や、学会活動を通して社会貢献に努めている。

### (6) 研究業績

#### [原著]

1. Moriwaki, M; Tanaka, M; Toba, M; Ozasa, Y; Ogata, Y; Obayashi, S. Relationship Between Unit Characteristics and Fall Incidence: A Cross-Sectional Survey Using Administrative Data in Japan JOURNAL OF NURSING RESEARCH. 2024.06; 32(3); e333
2. Hanai Akiko, Ishikawa Tetsuo, Sugao Shoko, Fujii Makoto, Hirai Kei, Watanabe Hiroko, Matsuzaki Masayo, Nakamoto Goji, Takeda Toshihiro, Kitabatake Yasuji, Itoh Yuichi, Endo Masayuki, Kimura Tadashi, Kawakami Eiryo. Explainable Machine Learning Classification to Identify Vulnerable Groups Among Parenting Mothers: Web-Based Cross-Sectional Questionnaire Study. JMIR Form Res. 2024.02; 8; e47372
3. Tezuka A, Hiroyama N, Suzuki M, Matsuoka M, Martin CJH, Martin CR. Translation and validation of the Japanese version of the Birth Satisfaction Scale-Revised. Japan journal of nursing science : JJNS. 2024.01; e12569
4. Yabunaka Koichi, Uematsu Haruhiro, Matsuzaki Masayo, Endo Masayuki. Comparing Ultrasonographic and Computed Tomographic Findings in Cases of a Large Fecaloma JOURNAL OF DIAGNOSTIC MEDICAL SONOGRAPHY. 2024;
5. Effectiveness of art-based health education on anemia and health literacy among pregnant women in Western Nepal: A randomized controlled trial. 2024; 19(9); e0281789
1. 藪中 幸一, 牛島 一成, 松崎 政代, 木戸 芳史. 携帯型エコー検査による精神科治療を受けている患者の便秘評価 精神科看護. 2024.09; 51(11); 053-059
2. 新名 美佳 [中村], 巖 千晶, 松永 佳子, 岡 美雪, 笹川 恵美, 松崎 政代, 園田 希, 大田 康江, 永松 美雪, 全国助産師教育協議会組織強化委員会 (国内・国際). 助産師教員キャリアラダーの各レベルに必要な能力 母性衛生. 2024.07; 65(2); 212-220
3. 原田 梨央, 白石 三恵, 倉嶋 優希, 千葉 貴子, 松崎 政代. 妊娠期の体型満足度と栄養素摂取量の関連 日本助産学会誌. 2024.04; 38(1); 3-14
1. Hiroko Sakai, Kumsun Lee, Yoko Oda Thapa, Rina Kawata, Akiko Iwakuni, Rajesh Adhikari, Tulsi Ram Bhandari. Effectiveness of a Nutritional Education Intervention Program for Reducing Anemia in Pregnant Women of Western Nepal: A Hospital-Based Study 2024.12; 12(1); 33-42

## [総説]

1. 松崎 政代. 【母乳育児支援～お母さんと赤ちゃんに寄り添い幸福度をアップさせるケアと支援】母乳育児・乳房ケアにおけるエコーの活用と可能性 臨床助産ケア: スキルの強化. 2024.05; 16(3); 22-29

## [講演・口頭発表等]

1. Yuka Ozasa, Naoko Ohta, Rie Notomi, Akemi Hiruta, Yaeko Kataoka, Satoko Nakagomi, RN. Evaluation of educational content for nurses to enable them to provide an initial response to pregnant women's 'consultation on prenatal testing'. International Society of Nurses in Genetics, World Conference 2024 2024.11.15 San Diego, USA
  2. Nozomi Kagenishi, Akiko Kondo, Natsuko Hiroyama. Factors related to interest in foreign perinatal culture and confidence in the care for foreign people of nurses and midwives working in Obstetrics unit: A pilot study. The 8th Annual Conference of Japan Society for International Nursing 2024.10.05 Ohita
  3. Masayo Matsuzaki. Longitudinal Ultrasound Imaging in an Early Postpartum Woman Diagnosed with Granulomatous Mastitis during Pregnancy: A Case Report. AFSUMB 2024 2024.05.09 Soul, Korea
  4. Koichi Yabunaka, Kazunari Ushijima, Masayo Matsuzaki, Yoshifumi Kido,. Evaluation of constipation in patients receiving psychiatric treatment using a pocket-sized ultrasound device. AFSUMB 2024 2024.05.09 Soul, Korea
1. 小笹 由香. 【あなた】をささえる【わたし】もまもられる 倫理的環境をめざして. 日本看護倫理学会年次大会抄録集 2024.06.01
  2. 藤井 誠, 管生 聖子, 華井 明子, 鳴戸 彩華, 樋口 優子, 大島 響弓, 池田 明日香, 中本 剛二, 河田 里奈, 松崎 政代, 渡邊 浩子, 遠藤 誠之. 子育て包括適応尺度 (CPRA) に基づく子育て支援基盤の開発及び社会実装 大阪大学生誕 1000 日見守り研究. 母性衛生 2024.09.01
  3. 中本 剛二, 遠藤 誠之, 松崎 政代, 管生 聖子, 河田 里奈, 池田 明日香, 渡邊 浩子, 藤井 誠, 華井 明子, 鳴戸 彩華, 樋口 優子, 大島 響弓. 子育て適応包括尺度 (CPRA) の結果と座談会における質的情報の関連の検討 大阪大学生誕 1000 日見守り研究. 母性衛生 2024.09.01
  4. 鳴戸 彩華, 華井 明子, 管生 聖子, 藤井 誠, 中本 剛二, 池田 明日香, 樋口 優子, 河田 里奈, 大島 響弓, 金 英仙, 松崎 政代, 渡邊 浩子, 遠藤 誠之. 母親特性に対応した育児サポート情報提供による EPDS・育児困難感低減への効果検証 無作為化比較試験. 母性衛生 2024.09.01
  5. 樋口 優子, 松崎 政代, 藤井 誠, 管生 聖子, 華井 明子, 中本 剛二, 池田 明日香, 河田 里奈, 鳴戸 彩華, 大島 響弓, 渡邊 浩子, 遠藤 誠之. 産後 1 ヶ月の授乳婦の子育てに関連する認知特性と栄養素摂取量との関連 大阪大学生誕 1000 日見守り研究. 母性衛生 2024.09.01
  6. 池田 明日香, 藤井 誠, 中本 剛二, 管生 聖子, 華井 明子, 河田 里奈, 樋口 優子, 鳴戸 彩華, 大島 響弓, 松崎 政代, 渡邊 浩子, 遠藤 誠之. 育児期の母親の子育て適応包括尺度 (CPRA) 21 因子に関連した気分状態の検討 大阪大学生誕 1000 日見守り研究. 母性衛生 2024.09.01
  7. 大島 響弓, 中本 剛二, 藤井 誠, 池田 明日香, 遠藤 誠之, 渡邊 浩子, 松崎 政代, 管生 聖子, 華井 明子, 河田 里奈, 鳴戸 彩華, 樋口 優子. 自治体保健師による子育て適応包括尺度 (CPRA) の活用検証 大阪大学生誕 1000 日見守り研究. 母性衛生 2024.09.01
  8. 田村 明音, 松崎 政代, 遠藤 誠之, 藤井 誠, 中本 剛二. 産後 2 週間における活動強度に着目した身体活動の傾向と産褥 14 日目の疲労感との関連: 前向き観察研究. 母性衛生 2024.09 宮崎県 シーガイヤ
  9. 廣山 奈津子, 三隅 順子, 海老沢 優実, 清水 風花, 小笹 由香, 松崎 政代. 性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの支援員が抱える困難 (第 1 報) 支援上の困難とよりよい支援のための自由記述の検討. 日本フォレンジック看護学会誌 2024.08.01
  10. 清水 風花, 廣山 奈津子, 松崎 政代, 小笹 由香, 海老沢 優実, 三隅 順子. 性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの支援員が抱える困難 (第 2 報) 困難を感じる被害の特徴に関する自由記述の検討. 日本フォレンジック看護学会誌 2024.08.01

**[社会貢献活動]**

1. AMDA 兵庫 監事 (河田), 2015 年 02 月 - 現在
2. 上海すくすく広場 (河田), 2021 年 06 月 - 現在
3. USHA JAPAN 副事務局長 (河田), 2023 年 - 現在
4. 災害時の助産師の役割 ―再学時の妊産婦・母子を守るための方法と準備―, 跡見学園女子大学, 赤ちゃんとママを守る避難所づくり, 跡見学園女子大学, 2024 年 09 月 28 日
5. 性暴力予防のためのバイスタンダー介入シンポジウム (廣山), 東京科学大学 3 号館, 2024 年 11 月 15 日

## 在宅・緩和ケア看護学分野

### Department of Home Health and Palliative Care Nursing

教授	福井 小紀子
准教授	野口 麻衣子 (キャリアアップ教授)
准教授	廣岡 佳代
講師	菅野 雄介
プロジェクト講師	伊藤 沙紀子 (2024年3月まで)
特任講師	嶋谷 圭一
特任助教	石井 馨子
特任助教	塩澤 拓亮
プロジェクト助教	坂野 朋未
大学院生	生田 花澄
	佐川 美枝子
	野中 さゆり
	高橋 倫子
	柳谷 利恵
	伏見 真由
	岸 達也
	高田 侑李
	澤田 樹里
	鶴田 眞帆
	畑崎 華織

#### (1) 分野概要

当分野は、これから急速に進む超高齢・人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

このために、分野の教員や大学院生を含む全構成員が力を合わせて、全世代の人々が最期まで安心・安全に過ごせる「地域包括ケアシステム」や「在宅・緩和ケアシステム」の構築に向けて、看護学研究者が果たせる役割の大きさは甚大であると考えています。

#### (2) 研究活動

分野名である「在宅・緩和ケア看護学」が表すように、当分野では「地域包括ケア」と「在宅看護」をキーワードとした幅広いテーマについて多彩な研究を精力的に進めています。

まず一つ目は、ケアの受け手に直接的に役立つテーマである、入退院支援、エンドオブライフケア、在宅緩和ケア、施設看取り、認知症ケア、レスパイトケア、治療後の在宅療養者のフレイル予防などの「個別ケアの発展」に貢献する研究。

二つ目は、ケア提供者自身にとって有用であり、ひいてはケアの受け手に間接的に役立つテーマとなる、医療介護連携、産官学民連携、在宅ケア管理、離職防止、スタッフ教育などの「ケア提供者、組織、地域のシステムの発展」につながる研究。

三つ目は、人口減少社会を見据えて、我々ケア提供者の人材の最大活用と限られた資源におけるケアの生産性向上を目指し、パーソナルヘルスレコードの活用やデータヘルスの推進が進むなか、医療介護レセプト情報、介護施設等で集積されているケア記録、在宅ケア領域で支払い請求上集積されている在宅ケア記録等の解析による看護の見える化や効果のエビデンス化に寄与するビッグデータを扱う研究。

四つ目は、科学技術・技術革新がヘルスケア業界に急速に導入される時代的背景のなか、看護の視点で行う、見守り機器や介護ロボットの導入・応用に繋がる研究、センシング機器等を活用した連続観察による効果的なケア追及を行うための看工連携研究やトランスレーショナルリサーチ。

以上のように、当研究室では、超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、社会的ニーズに看護が応えることを目指して、幅広い研究テーマを展開・追及していきます。

### (3) 教育活動

#### 学部教育

2年生の在宅看護学Ⅰでは、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について学びます。

3年生の在宅看護学Ⅱ、在宅看護学演習、在宅看護学実習では、施設医療からの移行期から在宅ターミナルに至るまでの訪問看護に関する仕組み、看護技術、他職種連携等の理論と実践、さらに介護保険・医療保険等、諸制度のもとでの療養支援に関する制度利用の仕組み、サービス提供体制、ケアマネジメントについて学びます。演習では具体的な訪問看護技術、および看護の展開を学びます。臨地実習においては、訪問看護ステーションの実習のみならず、地域包括支援センターにおけるケアマネジメント、予防介護に関する活動の実際、および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めていきます。

4年生の緩和ケア看護学Ⅰ、緩和ケア看護学Ⅱでは、エンドオブライフ期にある患者とその家族のもつ全人的な苦痛とその緩和、看護支援、多職種チームアプローチ等について学びます。総合実習および卒業研究では、4年間で学習した知識と技術を統合し、複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対し、主体的に看護実践できる力をつけていきます。また、看護の統合と実践実習で学習した多職種との連携、医療安全、管理的視点を踏まえ、在宅医療介護チームの中での看護師の役割を実践の中で学んでいきます。卒業研究では、実際の在宅療養者や地域住民、医療介護従事者からの調査データを用いて、これまで学習した知識や技術を俯瞰的に捉え、在宅療養者や地域住民、在宅医療介護従事者に役立つエビデンス構築を、体験を通して学びます。さらに看護研究の視点からも看護の理解を深め、将来、看護研究のリーダーを担う基礎力を身につけていきます。

#### 大学院教育

在宅・緩和ケア看護学特論Ⅰでは、地域包括ケアシステムの構築の重要性と実際の理解を深め、地域包括ケアシステム構築に向けた看護の役割について考察を進めていきます。

在宅ケア看護学演習Ⅰでは、文献レビューを通して、超高齢人口減少社会における在宅看護・地域包括ケアシステムの在り方、及び在宅療養における科学技術・ビッグデータの活用に関する研究動向を捉えることを目的に行っています。

在宅・緩和ケア看護学特論Ⅱでは、在宅・緩和ケア看護学に関連する社会情勢の変化、諸制度および地域社会における看護提供の仕組み等を国内外の研究論文および実践の知見当により探求するとともに、在宅ケア看護の専門的看護実践の研究を計画し、学位論文作成につながる研究に取り組み、自立して研究できる能力を習得していきます。

### (4) 教育方針

これから急速に進む超高齢・人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

### (5) 臨床活動および学外活動

1. 国保データベースを用いた医療及び介護における訪問看護サービスの質向上に向けた効果的・効率的な提供方針の提案（厚労科研省：2023年04月-2024年03月）

2. ナショナルデータベースや介護保険総合データベース等を活用した医療・介護特性を総合的に捉えたAIプロトタイプの開発と分析結果を根拠とした医療介護特特別の最適介入（厚労科研省：2022年04月-2026年03月）

3. 科学的介護情報システムを活用した長期ケア施設入居者の緊急入院予防ツールの開発（文部科学省/日本学術振興会：2023年04月-2026年03月）
4. 早期の在宅療養移行及び療養継続支援における訪問看護による効果測定及び評価のための研究（厚生労働省：2021年04月-2024年03月）
5. 自立支援に資する介護等の類型化及びエビデンスの体系的な整理に関する研究（厚生労働省：2021年04月-2024年03月）
6. 高齢がん患者の訪問看護サービスの導入判断に用いる指標の開発に関する研究（文部科学省/日本学術振興会：2024年04月-2027年03月）
7. 地域高齢者のポリファーマシーに対する訪問看護のアウトカム評価（文部科学省/日本学術振興会：2024年04月-2027年03月）
8. 看護師の科学的根拠に基づく実践のための実践者主体型多層の実装戦略の開発（文部科学省/日本学術振興会：2024年04月-2027年03月）
9. 高齢者施設における終末期ケアの質改善に向けた介入プログラムの開発（文部科学省/日本学術振興会：2022年07月-2025年03月）
10. 訪問看護記録からのデータ自動抽出によるケアの継続的質評価改善システムの構築と実装（文部科学省/日本学術振興会：2021年07月-2025年03月）
11. 終末期のがん関連症状に対する看護支援におけるエビデンスの基盤形成の確立（文部科学省/日本学術振興会：2021年04月-2025年03月）
12. がんゲノム医療を希望するがん患者と家族への支援体制の構築に関する研究（文部科学省/日本学術振興会：2021年04月-2025年03月）
13. 工学技術とケア情報を統合した在宅高齢者と家族と医療介護職向け看取り支援IoT開発（文部科学省/日本学術振興会：2021年04月-2025年03月）
14. 工学技術を活用した環太平洋アジア地域における認知症家族介護者支援モデル開発（文部科学省/日本学術振興会：2020年04月-2024年03月）
15. 訪問看護と介護の連携促進のための慢性疾患高齢者向け早期生活マネジメント指針の開発（文部科学省/日本学術振興会：2018年04月-2024年03月）

## (6) 臨床上の特色

複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対する統合的な看護実践が本分野の臨床上の特色である。また、多職種との連携、社会制度を理解した上での調整、医療安全等、管理的視点を在宅医療介護チームの中で発揮することも看護師の役割であることも特色である。超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、在宅看護臨床として、臨床的・学術的に社会的ニーズに応えることも求められる。

## (7) 研究業績

### [原著]

1. Kayo Hirooka, Yasuyuki Okumura, Jun Hamano, Junko Nozato, Sakiko Fukui, Asao Ogawa. Effects of dementia on functional decline in patients with non-small cell lung cancer at discharge from acute care

- hospitals: A retrospective cohort study. *J Geriatr Oncol.* 2024.11; 16(1); 102150
2. Kasumi Ikuta, Miya Aishima, Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui. Feasibility of Monitoring Heart and Respiratory Rates Using Nonwearable Devices and Consistency of the Measured Parameters: Pilot Feasibility Study. *JMIR human factors.* 2024.10; 11; e56547
  3. Kohei Kajiwara, Masamitsu Kobayashi, Kimiko Nakano, Yusuke Kanno, Miharu Morikawa, Yoshinobu Matsuda, Jun Kako. Use of Nursing Support Among Nurses for Caregiver Burden in Family Caregivers of Terminally Ill Patients with Cancer in Palliative Care Units in Japan: Multisite Cross-Sectional Study. *Palliat Med Rep.* 2024.10; 5(1); 425-429
  4. Jun Kako, Miharu Morikawa, Kohei Kajiwara, Masamitsu Kobayashi, Yusuke Kanno, Kimiko Nakano, Yoshinobu Matsuda. Nursing Practices for Dyspnea Management in Patients with Cancer Based on Monthly and Weekly Prognoses: A Multi-Site Cross-Sectional Study of Palliative Care Nurses in Japan. *Palliat Med Rep.* 2024.10; 5(1); 440-444
  5. Kasumi Ikuta, Maiko Noguchi-Watanabe, Miya Aishima, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Sakiko Fukui. Physical Function Trajectory among High-Functioning Long-Term Care Facility Residents: Utilizing Japanese National Data. *Geriatrics (Basel).* 2024.09; 9(5);
  6. Sosei Yamaguchi, Junko Koike, Momoka Igarashi, Takayuki Kawaguchi, Takuma Shiozawa, Kaori Usui, Mai Iwanaga, Asami Matsunaga, Koji Yoshida, Sayaka Sato, Chiyo Fujii. Comparative Analysis of Independent Reviewer-Rated and Self-Rated Fidelity Scores in Individual Placement and Support Programs: Repeated Cross-Sectional Surveys. 2024.09;
  7. Gading Ekapuja Aurizki, Ferry Efendi, Retno Indarwati, Firma Andriani, Dianis Wulan Sari, Noguchi-Watanabe M. The perceptions and experiences of older people living in the aftermath of Lombok earthquakes, Indonesia: A qualitative study. *J Older People Nurs.* 2024.08; 19(5); e12640
  8. Sakiko Fukui, Junko Fujita, Sumie Ikezaki. Development of the FAcE-to-face Cooperation Evaluation scale Short-version (FACES) to enhance collaboration among health and long-term care providers. *Geriatric Nursing.* 2024.06; 58(July–August 2024); 318-323
  9. Yasuma, N; Sato, S; Yamaguchi, S; Matsunaga, A; Shiozawa, T; Tachimori, H; Watanabe, K; Imamura, K; Nishi, D; Fujii, C; Kawakami, N. Effects of brief family psychoeducation on family caregiver burden of people with schizophrenia provided by psychiatric visiting nurses: a cluster randomised controlled trial *BMC PSYCHIATRY.* 2024.06; 24(1); 445
  10. Keiko Ishii, Yukie Takemura, Ryohei Kida. Relationship among group learning, individuals' and groups' internalization of evidence-based practice, and nurses' sustainment of the practice: a cross-sectional study *Journal of Health Organization and Management .* 2024.05; 38(5); 705-723
  11. Yasutaka Ojio, Takuma Shiozawa, Ernesto R. Gregorio Jr, Maria Cynthia Leynes, Paul Michael R. Hernandez, Crystal Amiel M. Estrada, Taruto Fuyama, Jun Kobayashi, Naoko Satake. An international interdisciplinary approach to developing video educational materials promoting mental health literacy among adolescents in the Philippines *EARLY INTERVENTION IN PSYCHIATRY.* 2024.05; 18(12); 1047-1054
  12. Dianis Wulan Sari, Elida Ulfiana, Nourmayansa Vidya Anggraini, Niko Dima Kristianingrum, Gading Ekapuja Aurizki, Noguchi-Watanabe M.. The Expectations Regarding Aging and Ageism Perspective between Nurses and Caregivers in Long-term Care Facilities. *Nurse Media Journal of Nursing.* 2024.04; 14(1); 85-95
  13. Keiko Ishii, Katsumi Fujitani, Hironobu Matsushita. Interprofessional collaboration mediates the relationship between perceived organizational learning and safety climate in hospitals: A cross-sectional study *The International Journal of Risk & Safety in Medicine .* 2024.03; 35(3); 217-232
  14. Maiko Noguchi-Watanabe, Kasumi Ikuta, Miya Aishima, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Sakiko Fukui. Reply to: Effect of COVID-19 on physical function decline predictors in nursing home residents *Geriatrics & Gerontology International.* 2024.03;
  15. Akari Higuchi, Sakiko Fukui, Haruka Tanaka, Yoko Higami, Momoe Utsumi, Tatsuto Suzuki, Akihiko Ikoma. An Academic-Industry collaborative research activity related to “care DX” from a nursing perspective: Focusing on night-time itching in older adults using sensor technology *Geriatrics & Gerontology International.* 2024.03; 24; 412-414

16. Kayo Hirooka, Hiroki Fukahori, Ayako Ninomiya, Sakiko Fukui, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Tomoaki Ishibashi. Impact of family involvement and an advance directive to not hospitalize on hospital transfers of residents in long-term care facilities. *Arch Gerontol Geriatr.* 2024.02; 117; 105183
17. Kasumi Ikuta, Sakiko Fukui. Mortality from decreased food intake in older adults in nursing homes: A retrospective cohort study using electronic care record data. *Archives of Gerontology and Geriatrics Plus.* 2024.02; in press.;
18. Tomomi Sakano, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Sakiko Fukui. Impact of home-visit nursing service use on costs in the last 3 months of life among older adults: A retrospective cohort study. *J Nurs Scholarsh.* 2024.01; 56(1); 191-201
19. Mieko Sagawa, Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui. Patterns of long-term care service use and multimorbidity in older Japanese adults: A cross-sectional study of claim data. *Geriatr Gerontol Int.* 2024.01;
20. Yuichiro Saizen, Kasumi Ikuta, Mizuki Katsuhisa, Yuko Takeshita, Yuki Moriki, Misaki Kasamatsu, Mai Onishi, Kiyoko Wada, Chiharu Honda, Kyoko Nishimoto, Yoshiko Nabetani, Tomoyuki Iwasaki, Eriko Koujiya, Miyae Yamakawa, Yasushi Takeya. Impact of nurse-led interprofessional work in older patients with heart failure and multimorbidity: A retrospective cohort study *American Heart Journal Plus: Cardiology Research and Practice.* 2024.01; 38; 100361
21. Kasumi Ikuta, Miya Aishima, Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui. Feasibility of monitoring heart and respiratory rates using non-wearable devices and consistency of the measured parameters: A pilot feasibility study *Journal of Medical Internet Research.* 2024; in press.;
1. 塩澤 拓亮, 川口 敬之, 山田 悠平, 安間 尚徳, 阿部 真貴子, 小池 純子, 五十嵐 百花, 小川 亮, 山口 創生, 藤井 千代. 地域で生活する精神疾患当事者が抱く自身の目標や期待する将来像 アンケート調査の内容分析 *医療と社会.* 2024.08; 34(2); 201-216
2. 森木 友紀, 生田 花澄, 勝久 美月, 竹下 悠子, 齊前 裕一郎, 大西 真愛, 笠松 弥咲, 糺屋 絵理子, 藤井 誠, 竹屋 泰. 在宅で障がい者を介護する高齢の介護者に関わる生活介護事業所職員におけるアドバンス・ケア・プランニング認知度とその関連要因 横断的研究 *大阪大学看護学雑誌.* 2024.03; 30(1); 12-20
3. 奥村 真央, 林 糸り子, 増田 菜穂子, 菅野 雄介, 赤瀬 智子, 玉井 奈緒. 緊急手術とともに初めてがんと診断される患者へのがん看護専門看護師による支援の実際 *日本がん看護学会誌.* 2024.02;
4. 濱谷雅子, 平原優美, 小沼絵理, 沼田華子, 野口麻衣子, 菱田一恵, 岡本有子, 竹森志穂, 新幡智子, 栗田佳代子, 山本則子. 無作為化比較試験による訪問看護師向け在宅看取り教育プログラム (PENUT) の有効性の検討 *日本看護学学会.* 2024; 44; 218-227
5. 北村智美, 五十嵐歩, 野口麻衣子, 吉江悟, 山本則子. 慢性呼吸器疾患患者に対する看護師・理学療法士・作業療法士による在宅呼吸リハビリテーションの実践に関する質的研究 *日本在宅ケア学会誌.* 2024; 27(2); 75-84

#### [書籍等出版物]

1. Trevor Frise Smith (翻訳: 佐々木 晶世, 石橋 智昭, 高野 龍昭, 二宮 彩子, 廣岡 佳代, 五十嵐 歩, 小野 恵子, 金田 明子, 土屋 瑠見子). *インターライ方式看取りケアのためのアセスメントとケアプラン.* 2024.12 (ISBN : 9784260057714)
2. 福井小紀子. *ACP のポイントとコツ ～看護師として自信をもって患者に接するために～.* 南江堂, 2024.07
3. 福井小紀子. 元来のありたい・あるべき訪問看護を文書化・可視化した画期的な書籍. *看護研究* 57(3), 2024.06

#### [講演・口頭発表等]

1. Keiko Ishii, Yukie Takemura, Aya Kitamura. Gap between the recognition of significance and workplace conditions regarding factors for the sustainment of evidence-based practice: A preliminary study for the development of implementation strategies . 17th Annual Conference on the Science of Dissemination and Implementation 2024.12.09 Arlington, VA, USA

2. Kayo Hirooka, Yusuke Kanno, Sakiko Itoh, Rie Yanagiya, Mieko Sagawa, Tomomi Sakano, Shiori Nitta, Junko Fujita, Sakiko Fukui. Evaluation of claims-based frailty measurements in older patients with cancer: a retrospective cohort study . 2024.12.07
  3. Keiko Ishii, Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui. Industry-Academia Collaboration Project for Creation of a Learning Health System for older care: A Case Study . The Gerontological Society of America 2024.11.13 Seattle, WA, USA
  4. Kasumi Ikuta, Maiko Noguchi-Watanabe, Miya Aishima, Sakiko Fukui. Trajectory of declining physical function among nursing home residents in Japan. Gerontology Society of America 2024.11.13 USA, Seattle
  5. Noguchi-Watanabe M. Sunada J, Yamahana R. Effect of homecare nurses' remote consultation with advanced nurses on patient symptoms: A feasibility study. Gerontology Society of America 2024.11.13 USA, Seattle
  6. Kasumi Ikuta, Shimatani K, Takmuma Shiozawa, Keiko Ishii, Yuri Takada , Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui. Machine-Learning Models for Predicting Physical and Psychological Symptoms in Nursing Home Residents Using Unstructured Documents from Electronic Care Records. EUGMS 2024.09
  7. Sakiko Itoh, Tomomi Sakano, Mieko Sagawa, Rie Yanagiya, Yusuke Kanno, Kayo Hirooka, Sakiko Fukui. Home Care Services in the Last Year of Life by Type of Care Management. Nursing Informatics 2024.07.28 Manchester UK
  8. Sakiko Fukui. Example of my university "TMDU". The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Symposium 3: Doctoral Nursing Education in East 2024.03.07 Hong Kong
  9. Tomomi Sakano, Sakiko Itoh, Kayo Hirooka, Yusuke Kanno, Mieko Sagawa, Rie Yanagiya, Shiori Nitta, Junko Fujita, Chikako Umezu, Sakiko Fukui. . Characteristics of older adults associated with early initiation of home-visit nursing services during the end-of-life stage. . The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2024.03.07 The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference
  10. Kasumi Ikuta, Miya Aishima, Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui.. Continuous Vital Signs Monitoring Using a Non-wearable Device in Nursing Home: Approach by Nurses.. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference. 2024.03.07
1. 佐々木 晶世, 廣岡 佳代, 五十嵐 歩, 二宮 彩子, 金田 明子. 高齢者施設における看取りケアに向けた ACP と看護職の役割 . 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.08 熊本
  2. 野口麻衣子, 山花令子, 仁昌寺貴子, 姉崎沙緒里. ケアの意味を見つめる事例研究への対話型 AI の活用: 試行と活用可能性. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
  3. 仁昌寺貴子, 姉崎沙緒里, 野口麻衣子, 山花令子. 看護領域における GPT 活用に関する文献レビュー. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
  4. 高田侑李, 野口麻衣子, 生田花澄, 嶋谷圭一, 塩澤拓亮, 石井馨子, 福井小紀子. 施設入居高齢者の状態把握と経過予測に資する研究 (第 2 報): 要介護度別の身体機能の基準範囲による 3 群比較. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
  5. 福井 小紀子, 廣岡 佳代, 菅野 雄介, 福田 裕子, 山本 則, 田母神 裕美. 看護小規模多機能型居宅介護の未来: 実践と政策と研究の観点から. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 交流集会 2024.12.07 熊本
  6. 佐川 美枝子, 福井 小紀子, 坂野 朋未, 菅野 雄介, 廣岡 佳代, 新田 汐里, 藤田 淳子. 介護保険サービス利用高齢者の多疾患併存の特徴—男女比較. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
  7. 藤田 淳子, 福井 小紀子, 坂野 朋未, 新田 汐里, 菅野 雄介, 廣岡 佳代, 佐川 美枝子, 森田 光治良. 心不全で入院した後期高齢者における自宅退院後の 在宅医療・介護サービス利用状況. 2024.12.07 熊本
  8. 福井 小紀子, 藤田 淳子, 池崎 澄江. 顔の見える関係評価尺度短縮版 ( FACES ) の開発. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
  9. 新田 汐里, 福井 小紀子, 坂野 朋未, 菅野 雄介, 廣岡 佳代, 佐川 美枝子, 藤田 淳子, 森田 光治良. 要支援・要介護認定を受けた高齢者の褥瘡保有・発生状況と褥瘡保有者の特徴. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本

10. 生田 花澄, 福井 小紀子, 野口 麻衣子, 嶋谷 圭一, 塩澤 拓亮, 石井 馨子, 浅海 くるみ, 高田 侑李. 機械学習を用いた有料老人ホーム入居高齢者の身体的・心理的症候評価モデルの構築: 経時記録の活用. 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
11. 菅野 雄介, 佐川 美枝子, 新田 汐里, 坂野 朋未, 藤田 淳子, 廣岡 佳代, 福井 小紀子. 初回要介護認定を受けた地域在住高齢者の多剤併用・潜在的不適切処方の実態と認定後1年以内の死亡との関連. 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
12. 佐川 美枝子, 福井 小紀子, 坂野 朋未, 菅野 雄介, 廣岡 佳代, 新田 汐里, 藤田 淳子. 介護保険サービス利用高齢者の多疾患併存の特徴—男女比較—. 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
13. 藤田 淳子, 福井 小紀子, 坂野 朋未, 新田 汐里, 菅野 雄介, 廣岡 佳代, 佐川 美枝子, 森田 光治良. 心不全で入院した後期高齢者における自宅退院後の在宅医療・介護サービス利用状況. 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
14. 嶋谷 圭一, 野口 麻衣子, 生田 花澄, 塩澤 拓亮, 石井 馨子, 高田 侑李, 浅海 くるみ, 福井 小紀子. 施設入居高齢者の状態把握と経過予測に資する研究(第1報): 死亡前時系列データを用いた変化点検出. 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
15. 塩澤 拓亮, 生田 花澄, 嶋谷 圭一, 石井 馨子, 高田 侑李, 浅海 くるみ, 野口 麻衣子, 福井 小紀子. 施設入居高齢者の状態把握と経過予測に資する研究(第3報): 終末期の身体的・心理的症候出現率の変遷. 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
16. 濱谷 雅子, 平原 優美, 小沼 絵理, 沼田 華子, 野口 麻衣子, 菱田 一恵, 岡本 有子, 竹森 志穂, 新幡 智子, 山田 享介, 栗田 佳代子, 山本 則子. 訪問看護師向け在宅看取り教育プログラム(指導者)(PENUT-T)の有効性の検討 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12 熊本
17. 畑崎 華織, 廣岡 佳代, 菅野 雄介, 福井 小紀子. 入退院支援に関連する要因の探索—オープンデータを用いた地域比較—. 日本在宅看護学会第14回学術集会 2024.11.07 船橋
18. 福井 小紀子. 少子高齢・人口減少社会を見据えたICTとDXを活用した研究紹介: 看護学の視点から. 第34回日本保健科学学会 2024.10.19 東京
19. 片山 宗紀, 堤 史織, 新田 慎一郎, 水野 聡美, 大野 昂紀, 塩澤 拓亮, 安間 尚徳, 嶋根 卓也, 松本 俊彦, 高野 歩. ”大きな理想をもって、本当のハーム・リダクションを目指してほしい” —アルコール・薬物依存症の家族が考える、ハーム・リダクションの視点. アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会 2024.09.19 東京
20. 水野 聡美, 堤 史織, 片山 宗紀, 新田 慎一郎, 大野 昂紀, 安間 尚徳, 塩澤 拓亮, 嶋根 卓也, 松本 俊彦, 高野 歩. ハームリダクションに基づく支援の導入・普及に関する研究: グループインタビュー調査の実施背景と研究方法の説明. アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会 2024.09.19 東京
21. 堤 史織, 片山 宗紀, 新田 慎一郎, 水野 聡美, 大野 昂紀, 塩澤 拓亮, 安間 尚徳, 嶋根 卓也, 松本 俊彦. アルコール・薬物使用問題の経験がある当事者の視点からみるハームリダクションに基づく支援において重要な要素. アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会 2024.09.19 東京
22. 新田 慎一郎, 水野 聡美, 堤 史織, 片山 宗紀, 大野 昂紀, 塩澤 拓亮, 安間 尚徳, 嶋根 卓也, 松本 俊彦, 高野 歩. “支援者の立場から考える” ハームリダクションに基づく支援における重要な要素. アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会 2024.09.19 東京
23. 石井 馨子, 武村 雪絵. 病院が導入したEvidence-based practiceの継続的实施に関連する要因: 横断研究による階層別の関連要因分析. 第28回日本看護管理学会学術集会 2024.08.23 名古屋
24. 森木 友紀, 生田 花澄, 竹下 悠子, 勝久 美月, 齊前 裕一郎, 大西 真愛, 笠松 弥咲, 藤井 美咲, 糺屋 絵理子, 竹屋 泰. 九州地区の訪問看護事業所看護師のアドバンス・ケア・プランニング認知度と実態調査. 第66回日本老年医学会学術集会 2024.06.13 名古屋
25. 増田 菜穂子, 林 糸り子, 奥村 真央, 菅野 雄介, 竹山 昌伸, 加藤 弘美, 赤瀬 智子, 玉井 奈緒. AYA世代で悪性骨軟部腫瘍と診断された患者の経験. 第38回日本がん看護学会学術集会 2024.02.24 神戸
26. 三堀 いずみ, 林 糸り子, 菅野 雄介, 玉井 奈緒, 渡邊 眞理, 赤瀬 智子. 治療中止と同時に療養の場を選択する進行がん患者とその家族へのがん看護専門看護師による相談支援の実際. 第38回日本がん看護学会学術集会 2024.02.24 神戸
27. 奥村 真央, 林 糸り子, 増田 菜穂子, 菅野 雄介, 赤瀬 智子, 玉井 奈緒. 緊急手術とともに初めてがんと診断される患者へのがん看護専門看護師による支援の実際. 第38回日本がん看護学会学術集会 2024.02.24 神戸

28. 菅野 雄介. がん患者のせん妄看護ケア（非薬物療法）を深掘りする. 日本緩和医療学会第36回教育セミナー 2024.01 オンライン開催

#### [受賞]

1. Best poster award, EAFONS (Kasumi Ikuta, Miya Aishima, Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui), 2024年03月
2. 奨励論文賞, (野口 麻衣子) 日本在宅ケア学会, 2024年06月
3. 医学研究奨励賞 (廣岡 佳代), 東京科学大学, 2024年12月

#### [その他業績]

1. 国際交流の再開と更なる発展: コロナ禍で継続して取り組んだ4大学の経験から, 2024年03月 JANPU 国際交流推進委員会主催セミナー
2. 人口減少社会とDX推進が我々にもたらすもの, 2024年03月 ダイヤ財団発行「ダイヤモンドニュース112号(2024年早春)」巻頭言
3. 演題: 介護施設での機器導入による経営効率化と人材戦略 (フランスベッド寝返り支援ベッド200台導入), 2024年03月 主催: 一般社団法人東京都慢性期医療協会 第29回事例発表
4. 機器とケア記録による高齢者の複合的变化をAI解析した看取り支援IoTの開発~文部科研基盤A研究2022-2024年度の取組紹介~, 2024年07月 ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)における文部科研基盤A研究2022-2024年度の取組紹介
5. 第19回四大学連合文化講演会 講演『テクノロジーを活用して看護師が行う最適なケア提供を目指して: 企業と進めてきた産学連携研究の紹介』(福井 小紀子), 2024年11月

#### [社会貢献活動]

1. 日本緩和医療学会, 教育・研修委員会 ELNEC-J WP (廣岡佳代), 日本緩和医療学会, 2016年 - 現在
2. 東京大学 非常勤講師 (福井 小紀子), 2016年04月01日 - 現在
3. 日本緩和医療学会, オンラインジャーナル編集委員 (廣岡佳代), 日本緩和医療学会, 2017年08月 - 現在
4. Journal of Advanced Nursing, reviewer (Kayo Hirooka), 2018年03月18日 - 現在
5. Palliative Medicine, reviewer (Kayo Hirooka), 2018年08月01日 - 現在
6. 東邦大学 研究方法特講 非常勤講師 (野口 麻衣子), 東邦大学, 2019年 - 現在
7. Psycho-Oncology, reviewer (Kayo Hirooka), 2019年03月18日 - 現在
8. 慶應義塾大学大学院 非常勤講師 (廣岡 佳代), 慶應義塾大学大学院, 2019年04月01日 - 現在
9. 公益社団法人日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 (野口 麻衣子), 日本看護科学学会, 2019年10月 - 現在
10. 日本在宅看護学会 編集委員会 編集委員 (野口 麻衣子), 日本在宅看護学会, 2020年03月 - 現在
11. 浜松医科大学 非常勤講師 (福井 小紀子), 2020年04月01日 - 現在
12. 国立研究開発法人国立がん研究センター 地域緩和ケア連携調整員研修におけるファシリテーター (福井 小紀子), 2021年01月 - 2024年12月
13. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (野口 麻衣子), 2021年02月01日 - 現在
14. 静岡県看護協会 地域包括ケア時代の地域連携と看護職の役割 (福井 小紀子), 看護職員管理者の相互研修, 2021年04月01日 - 現在
15. 大阪府看護協会 ヘルスケアシステム論I ヘルスケアサービスにおける看護の役割 (福井 小紀子), 認定看護管理者教育課程, 2021年04月01日 - 現在

16. 静岡県看護協会 ヘルスケアシステム論Ⅱ 社会保障制度の現状と課題（福井 小紀子），看護管理者教育課程, 2021年04月01日 - 現在
17. 国立研究開発法人国立がん研究センター 地域緩和ケア連携調整員研修に関する意見交換会への出席（福井 小紀子），2021年06月 - 2024年02月
18. Japan Journal of Nursing Science, reviewer (Kayo Hirooka), 2021年11月02日 - 現在
19. お茶の水看護学研究会 編集委員会 編集委員長（野口 麻衣子），お茶の水看護学研究会, お茶の水看護学雑誌, 2022年04月 - 現在
20. 日本赤十字社幹部看護師研修センター 「赤十字看護管理者研修Ⅱ」（福井 小紀子），ヘルスケアシステム論Ⅱ 保健医療福祉サービスの現状と課題, 2022年04月 - 現在
21. 愛知県看護協会 「安全管理講義」講師（福井 小紀子），訪問看護認定看護師教育課程，2022年04月01日 - 現在
22. 日本看護系大学協議会理事会 理事（福井 小紀子），2022年07月 - 2026年07月
23. 日本看護系大学協議会国際交流委員会 委員長（福井 小紀子），2022年07月 - 2026年07月
24. 日本緩和医療学会 学術大会支援メンバー WG（廣岡佳代），日本緩和医療学会, 2022年08月 - 現在
25. 厚生労働省社会保険審議会専門委員（介護給付費分科会）専門委員（福井 小紀子），2022年09月 - 現在
26. Geriatrics & Gerontology International, reviewer (Kayo Hirooka), 2022年11月20日 - 現在
27. 全国訪問看護事業協会 研究委員会（福井 小紀子），2023年04月 - 2026年03月
28. 令和5年度介護報酬改定検証調査「個室ユニット型施設の整備・運営状況に関する調査研究事業」副委員長（福井 小紀子），2023年05月 - 2024年03月
29. 厚生労働省 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 老人保健健康増進等事業「看護小規模多機能型居宅介護の特性を踏まえた普及を図る方策に関する事業」調査 委員長（福井 小紀子），2023年07月 - 2024年03月
30. 厚生労働省 PwC コンサルティング合同会社 老人保健健康増進等事業「介護現場での自立支援促進に係る調査研究事業における検討委員会」委員（福井 小紀子），2023年07月 - 2025年03月
31. EAFONS Executive Committee MEMBER（福井 小紀子），2023年07月 - 2026年06月
32. 厚生労働省 株式会社日本総合研究所 老人保健健康増進等事業：「介護保険施設等における事故報告に関する調査研究事業」委員長（福井 小紀子），2023年07月01日 - 2024年03月31日
33. 厚生労働省 株式会社三菱総合研究所「居宅介護支援及び介護予防支援におけるモニタリングのあり方に関する調査研究事業」ケアマネジャー未来プロジェクト会議 委員（福井 小紀子），2023年08月 - 2024年03月31日
34. 特定非営利活動法人日本医療マネジメント学会 「医療福祉連携講習会」講師（福井 小紀子），2023年08月20日 - 現在
35. フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団選考委員（福井 小紀子），2023年10月 - 2027年01月
36. 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団理事会 理事（福井 小紀子），2023年10月 - 現在
37. 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所 「地域緩和ケア連携調整員研修」（福井 小紀子），2023年10月14日 - 2025年03月
38. Journal of Loss and Trauma, reviewer (Kayo Hirooka), Journal of Loss and Trauma, reviewer, 2023年12月01日 - 2024年01月01日
39. 第39回 日本がん看護学会学術集会 査読委員（廣岡佳代），日本がん看護学会, 2024年 - 現在
40. 第39回 日本がん看護学会学術集会 企画委員（廣岡佳代），日本がん看護学会, 2024年 - 現在
41. 令和5年度訪問看護研究発表会（野口 麻衣子），横浜市社会福祉センター4階ホール, 2024年03月02日

42. 日本家族看護学会（野口 麻衣子），2024年06月
43. 第11回日本CNS看護学会（野口 麻衣子），第11回日本CNS看護学会事務局，2024年06月08日
44. 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 「看護小規模多機能型居宅介護の更なる普及と機能強化に関する調査研究事業」 委員（福井 小紀子），2024年07月 - 2025年03月
45. 厚生労働省 老健局 三菱総合研究所 令和6年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（令和6年度調査）「福祉用具貸与価格の適正化に関する調査研究」調査検討委員会 委員長（福井 小紀子），2024年07月 - 2025年03月
46. ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会（RRI）「機器とケア記録による高齢者の複合的变化をAI解析した看取り支援IoTの開発 ～文部科研基盤A研究2022-2024年度の取組紹介～」講師（福井 小紀子），2024年07月18日
47. 静岡県看護協会 「看護職員管理者の相互研修—暮らしをつなげる看護職員のための研修—」講師及びシンポジウム座長（福井 小紀子），2024年07月20日
48. 第6回日本在宅医療連合学会大会シンポジウム：在宅医療の研究を推進するために（野口 麻衣子），日本在宅医療連合学会，2024年07月20日
49. 厚生労働省 株式会社日本総合研究所 老人保健健康増進等事業「介護保険施設等におけるリスクマネジメントの推進に資する調査研究事業」有識者検討委員会 委員長（福井 小紀子），2024年08月 - 2025年03月
50. 聖隷福祉事業団 「聖隷福祉事業団の施設・在宅で働く看護職に対する研修」講師（福井 小紀子），2024年09月25日
51. 第4回ケアリングII（CMC事例研究）コース研修（野口 麻衣子），国立療養所沖縄愛楽園，2024年09月27日
52. 令和6年度三重看護研究会第1回研修会（野口 麻衣子），三重看護研究会，2024年10月05日

## 国際看護開発学

### International Nursing Development

教授	近藤 暁子
非常勤講師	Ann L. Eckhardt
非常勤講師	Mabel C. Ezeonwu
非常勤講師	Justina Liu Yat Wa
非常勤講師	Iqbal Pramukti
非常勤講師	新津 晃右
非常勤講師	駒形 朋子
非常勤講師	野口 眞貴子
大学院生	Hua Jing
大学院生	Quian Huilin
大学院生	Wang Congcong
大学院生	Wen Jieru
大学院生	平井 寛季
大学院生	Piao Meihui
大学院生	Ganchuluun Sambuu
大学院生	Ying Zhexi
大学院生	Zhou Yao
大学院生	Long Dingyi

#### (1) 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主に、大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。留学生も多く受け入れ、大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

#### (2) 研究活動

日米で医療システム・文化的な違いがある中でその比較を通し、各国の実情と社会ニーズに即したシステムを探求し、国際的視点からそれぞれの患者に適した QOL を向上させるための看護ケアプログラム/看護方法の開発を目指している。米国ワシントン大学、インドネシアのパジャジャラン大学、香港理工大学の教員との共同で、「大学生のコントロール感と健康管理行動との関連について国際比較」、米国テキサス大学の教員と共同研究「急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムの関連について日米比較」を行っている。さらにワシントン大学と共同で日本のグローバル化教育を行うための看護教員に対する支援についての研究、英国のカーディフ大学とニュージーランドのワイカト大学と学部生の共同講義の成果評価に関する研究を行っている。

#### (3) 教育活動

##### 【学部教育】

国際保健看護学、卒業論文 I/II、総合実習 I、英語科目を担当している。国際保健看護学では、諸外国の医療や看護を理解するに留まらず、各国・地域の歴史・社会システムの変遷との関連から健康問題や医療・保健・看護問題の本質について学びます。学内外の講師陣と共に、途上国・先進国における諸問題を取り上げている。ZOOM

を使用して海外の教員の講義や海外の大学との共同講義も行っている。また、身近な問題として在日外国人の健康問題なども取り上げ、地球市民としての自覚に立脚した看護専門職としての国際感覚を養うことを目的としている。英語科目はネイティブの英語教員、留学生のみならず、海外の大学の学生とオンラインでコミュニケーションを取り、英語を学ぶのではなく、英語で異文化を学んでいる。

#### 【大学院教育】

大学院共通科目である国際看護研究方法論では、留学生と共に全て英語で教授している。また、ZOOM等を利用し、海外講師による遠隔講義や大学院生のプレゼンテーションの発信も行っている。国際舞台で要求されるプレゼンテーションおよび質疑応答技術、研究論文投稿・査読等におけるアカデミックマナーの習得と共に、国際舞台でその能力を発揮できるよう、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。例年5人以下の少人数クラスにおいて、国際学会等における自己紹介から、模擬学会発表における研究プレゼンテーション・ディスカッション、レセプションにおけるビジネスマナーまで、参加型英語演習を取り入れて段階的に教授しています。受講した学生より、初めての海外研修や国際学会への参加時に「非常に役立った」という評価を得ている。また、博士論文を書くときに困らないように、研究計画書の段階から英語で書く訓練を行っている。

#### (4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職として国内外で役割を発揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、グローバルな視点から、成人から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。

#### (5) 臨床活動および学外活動

クラウドファンディングプロジェクト【ネパール農村部の子どもたちに学びの楽しさを知ってもらいたい！】について、お陰様でネクストゴールも達成し、支援活動を行っています。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。報告書はこちらをご覧ください。

##### 活動報告①

日本語：[https://readyfor.jp/projects/RKHPProject/announcements/319989?sns\\_share\\_token=3df5d68ac9041b3df981](https://readyfor.jp/projects/RKHPProject/announcements/319989?sns_share_token=3df5d68ac9041b3df981)

英語：<https://readyfor.jp/projects/RKHPProject/announcements/323673>

##### 活動報告②

日本語：[https://readyfor.jp/projects/RKHPProject/announcements/321973?sns\\_share\\_token=3df5d68ac9041b3df981](https://readyfor.jp/projects/RKHPProject/announcements/321973?sns_share_token=3df5d68ac9041b3df981)

英語：<https://readyfor.jp/projects/RKHPProject/announcements/323677>

#### (6) 研究業績

##### [原著]

1. Hiroki HIRAI, Akiko KONDO and Janelle MOROSS. Factors Related to Nursing Students' Knowledge and Attitude toward LGBTQ+ Persons in Japan The Journal of Japanese Society of Nursing and Health Care . 2024.12; 26(2);
2. Akiko Kondo, Congcong Wang, Kazuko Naruse, Kosuke Niitsu, Dingyi Long . Comparison of global nursing education and necessary supports for nurse educators between Japan and four English-speaking countries: An international cross-sectional study Nurse Education in Practice. 2024.08; 79; 1-11
3. Akiko Kondo, Tomomi Oki, Ann L. Eckhardt. Factors related to resilience and attitudes towards care of the dying among critical care nurses Nursing in Critical Care. 2024.08; online(ahead of print); 1-9
4. Jing Hua, Akiko Kondo, Congcong Wang, Sambuu Ganchulun . Language confidence and job satisfaction among foreign-born nurses in Japan: mediating effect of workplace discrimination and moderating effect of immigration duration BMC Nursing. 2024.07; 23(450); 1-10

5. Imazu Y, Kondo A, Ushikubo M, Kanbara S, Kawahara N, Kondo M. Anxiety among Japanese nursing researchers before and after dispatch for COVID-19 pandemic support: Effects of anxiety-enhancing and buffering factors. *Japan journal of nursing science : JJNS*. 2024.06; 21(4); e12608
6. Akiko Kondo & Mai Noguchi. Change of motivation and need to study English among nursing students:A prospective two-year comparison *Journal of Japanese Society for International Nursing*. 2024.04; 7(2); 12-20
7. Rina Shoki, Erika Ota, Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo. Factors Associated with the Resilience of St. Luke's International University Nursing Students During the COVID-19 Pandemic *St. Luke's International University Repository*. 2024.03; 10; 31-39
8. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kosuke Niitsu, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Erika Ota, Mabel C. Ezeonwu. Comparing factors related to perceived control and preventive behaviors from COVID-19 between Japanese and American nursing students: A cross-sectional study *Japan Journal of Nursing Science*. 2024.02; e12585;
9. Meihui PIAO, Akiko KONDO, Huilin QIAN. Factors related to immigrants' disaster preparedness: A scoping review *Health Emergency and Disaster Nursing*. 2024;

**[講演・口頭発表等]**

1. Yoko IMAZU, Yoshiko SASAKI, Akiko KONDO, Satoru YAMADA, Hiroko AZECHI, Chisato HAYASHI, Misako MIYAZAKI, Naho SATO, Makiko NOGUCHI, Ai OGATA, Sonoe MASHINO, Mari KINOSHITA. Achievement for Ten years in Cooperative Graduate Education Program: Disaster Nursing Global Leader Program (DNGL). The 8th International Conference of World Society of Disaster Nursing (WSDN) 2024.11.30
2. Diana De, Akiko Kondo, Donna Foxhall. Embedding international collaborative online learning (COIL) to enhance cultural safety in nurse education . 9th International Nures Education Conference 2024.10.29 Singapore
3. Akiko Kondo, Congcong Wang , Kazuko Naruse, Kosuke Niitsu, Dingyi Long. Factors related to teaching global nursing among nurse educators: A cross-sectional study. 2024.10.05 Ohita
4. Nozomi Kagenishi, Akiko Kondo, Natsuko Hiroyama. Factors related to interest in foreign perinatal culture and confidence in the care for foreign people of nurses and midwives working in Obstetrics unit: A pilot study. The 8th Annual Conference of Japan Society for International Nursing 2024.10.05 Ohita
5. Dingyi Long, Akiko Kondo, Congcong Wang, Kazuko Naruse, Kosuke Niitsu.. Factors related to teaching global nursing in Chinese nursing educators: A cross-sectional study. 一般社団法人日本国際看護学会第8回学術集会 2024.10.05 大分
6. Yao Zhou, Zhexi Ying, Akiko Kondo. Burnout in newly graduated nurses: a systematic review protocol. The 8th Annual Conference of Japan Society for International Nursing 2024.10.05 Oita, Japan
7. Congcong Wang, Akiko Kondo, Kazuko Naruse, Kosuke Niitsu, Dingyi Long. Intercultural Sensitivity Among Nursing Educators: Comparison between Japan and China. The 8th Annual Conference of Japan Society for International Nursing 2024.10.05 Ohita
8. Hiroki Hirai, Akiko Kondo, Janelle Moross. Nursing students' conceptions of the LGBTQ+ community in Japan: Contents analysis. 27th East Asia Forum of Nursing Scholars Secretariat 2024 2024.03.06 The Hong Kong University, Hong Kong
9. Rina Shoki, Erika Ota, Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo. Factors Associated with the Resilience of Nursing Students During the COVID-19 Pandemic. 27th East Asia Forum of Nursing Scholars Secretariat 2024 2024.03.06 The Hong Kong University, Hong Kong
1. 今津陽子, 近藤暁子, 牛久保美津子, 神原咲子, 河原宣子, 近藤麻理. 新型コロナウイルス感染症感染拡大状況において派遣された看護学研究者の支援活動前後の不安と影響要因. 第44回日本看護科学学会学術集会 2024.12.08 熊本県熊本市

**[受賞]**

1. 一般奨学金, 公益財団法人ヒロセ財団, 2024年04月
2. 山路ふみ子専門看護教育研究助成基金, 2024年05月

**[その他業績]**

1. ノルウェー科学技術大学交換訪問, 2024年06月

## 看護管理・高齢社会看護学分野

### Nursing Management and Gerontology Nursing

教授 緒方 泰子  
准教授 佐々木 美樹  
助教 湯本 淑江

非常勤講師 佐藤 可奈  
非常勤講師 高田 聖果  
非常勤講師 西川 裕理  
非常勤講師 藤波 景子  
非常勤講師 Schnock Kumiko  
非常勤講師 田中 理子  
非常勤講師 森 陽子  
特任講師 鄭 珠

大学院生 博士課程（5年一貫制）

山口 さおり  
藤芳 絢乃  
佐藤 潤  
前田 優貴乃  
廣田 千穂  
陳 冠華  
小谷 愛  
野田 京花  
近藤 大稀  
張 麗

研究生  
石井 典子

事務補佐員  
鎌田 沙耶  
小曾根 裕美（～2024.5.9）  
山下 公代（2024.9.16～）

#### （1）分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法（個へのアプローチ）に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか（社会システムへのアプローチ）といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応じていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護システム管理学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえリーダーシップを発揮できるような人材養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指しています。

## (2) 研究活動

1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
2. 看護ケアの質に関する研究
3. 看護管理学に関する研究
4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究
5. 認知症高齢者へのケアに関する研究 など

## (3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供しています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護システム管理学といった領域において、国内外の研究を牽引していけるような研究者養成を目指しています。

## (4) 研究業績

### [原著]

1. Guanhua Chen, Yasuko Ogata, Miki Sasaki. Factors associated with burnout among internationally educated nurses: A scoping review. *International Nursing Review*. 2024.12; 72(1);
2. Taketomi K, Ogata Y, Sasaki M, Yonekura Y, Tanaka M.. A cross-sectional study examining the relationship between nursing practice environment and nurses' psychological empowerment *Scientific Reports*. 2024.11; 14(1); 1-9
3. Ogata Yasuko, Sasaki Miki, Morioka Noriko, Moriwaki Mutsuko, Yonekura Yuki, Lake Eileen T.. Influence of nurse work environment and psychological distress on resignation from hospitals: a prospective study *Industrial Health*. 2024.09; 62(5); 295-305
4. Moriwaki, M; Tanaka, M; Toba, M; Ozasa, Y; Ogata, Y; Obayashi, S. Relationship Between Unit Characteristics and Fall Incidence: A Cross-Sectional Survey Using Administrative Data in Japan *JOURNAL OF NURSING RESEARCH*. 2024.06; 32(3); e333
5. Moriwaki, M; Takae, A; Toba, M; Sasaki, M; Ogata, Y; Obayashi, S; Fushimi, K. Factors associated with proximal femoral fractures in older adults during hospital stay: a cross-sectional study. *BMJ Qual Saf.* 2024;
1. 出貝裕子, 勝野とわ子, 青山美紀子, 森田牧子, 前田優貴乃.. 若年性認知症家族介護者の秘匿感情: 秘匿から開示への過程における経験 *日本看護科学会誌*. 2024; 44; 408-418

### [講演・口頭発表等]

1. 廣田 千穂, 長井 聡子, 小谷 愛, 緒方 泰子. 心血管疾患患者の服薬行動における意図的・非意図的ノンアドヒアランス: スコーピングレビュー. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2024.07.13 神戸
2. Ayano Ito, Kana Sato, Yasuko Ogata,. Nurse' s safety compliance and safety participation for patient safety: A scoping review. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2024.03.06 Hong Kong
3. Guanhua Chen; Yasuko Ogata; Miki Sasaki; Ayano Ito. Factors associated with burnout among foreign-educated nurses. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) 2024.03.06 Hong Kong

4. Mikiko Aoyama, Towako Katsuno, Yuko Degai, Makiko Morita, Yukino Maeda.. Coping Strategies in Family Caregivers of Persons with Young-Onset Dementia in Japan.. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) 2024.03.06 HONGKONG
1. 高田 聖果, 横井 郁子, 藤野 秀美, 橋本 裕, 山下 雅美. 認知症の診断を受けた患者が高齢者看護外来に抱く思い. 第 24 回東邦看護学会学術集会 2024.12.21 WEB
2. 高田 聖果, 橋本 裕, 藤野 秀美, 横井 郁子. 看護外来を受診する認知症の診断を受けた患者を介護する家族が経験した支援と思い. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.07 熊本
3. 緒方泰子, 佐々木美樹, 藤芳絢乃, 米倉佑貴. 全国の訪問看護事業所調査にもとづく、在宅ケアの実践環境評価尺度短縮版の開発. 第 62 回日本医療・病院管理学会学術総会 2024.10.27 埼玉県
4. 藤芳 絢乃, 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 戸ヶ里 泰典. 訪問看護師の心理的安全性と首尾一貫感覚の関連の検証～健康生成論における汎抵抗資源としての心理的安全性の可能性～. 第 62 回日本医療・病院管理学会学術総会 2024.10.26 埼玉
5. 小谷愛, 佐々木美樹, 藤芳絢乃, 米倉佑貴, 緒方泰子. 管理者のエンパワリング行動と内発的モチベーションを介した看護職員の創造性の関連-訪問看護事業所を対象とした質問紙調査の二次分析-. 2024.10.26
6. 保坂祐衣, 湯本淑江, 伊藤藤芳絢乃, 陳冠華, 緒方泰子. ストーマ造設患者に対する e-health 介入の種類とアウトカム: スコーピングレビュー. 第 62 回日本医療・病院管理学会学術総会 2024.10 和光市
7. 鈴木友里亜, 湯本淑江, 前田優貴乃, 小谷愛, 緒方泰子. 認知症者がケアを拒否した際の工夫: 訪問看護事業所のスタッフを対象とした質的研究. 第 62 回日本医療・病院管理学会学術総会 2024.10
8. 陳 冠華, 緒方泰子, 佐々木美樹, 藤芳 綾乃. 外国人看護師のバーンアウトの関連要因に関するスコーピングレビュー: 個人要因に着目した考察. 第 14 回日本看護評価学会学術集会 2024.09.14 京都
9. 緒方泰子, 山口さおり, 佐々木美樹, 湯本淑江, 佐藤可奈, 浅香えみ子, 佐藤朋子, 藤芳絢乃, 小谷愛. しなやかに適応する力「レジリエンス」を味方につける～マネジメント力を高める協働学習への応用～. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.24 名古屋
10. 中澤花梨, 廣田千穂, 佐々木美樹, 緒方泰子. 看護師長のエンパワリングリーダーシップ、メンバーのレジリエンスとインシデントから学ぶ組織学習との関連. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.23 名古屋
11. 橋本瑞穂, 佐々木美樹, 鳥越志保, 湯本淑江, 緒方泰子. 部署異動をした看護師の新たな職場環境における意見を“発言”する際の経験. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 2024.08.23 名古屋
12. 長井聡子, 緒方泰子. 看護師のワーク・エンゲイジメントと環境要因、就業継続意図との関連 -縦断調査-. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会 2024.08.19 東京
13. 尾木 美智; 森脇 睦子; 鳥羽 三佳代; 田中 陽菜; 佐々木 美樹; 緒方 泰子; 伏見 清秀. DPC データを用いた周術期口腔機能管理実施状況の多施設比較. 第 26 回日本医療マネジメント学会学術総会 2024.06.21 福岡
14. 田中 陽菜; 森脇 睦子; 鳥羽 三佳代; 尾木 美智; 佐々木 美樹; 緒方 泰子; 伏見 清秀. 造血幹細胞移植患者への周術期口腔機能管理; 術後 30 日以内の効果と全国的実施状況. 第 26 回日本医療マネジメント学会学術総会 2024.06.21 福岡
15. 青山美紀子, 前田優貴乃, 出貝裕子, 森田牧子, 勝野とわ子. 若年認知症家族介護者の否定的な症状・行動からの支援内容の検討. 第 25 回日本認知症ケア学会大会 2024.06.15 東京
16. 飯岡由紀子, 渡邊直美, 田代真理, 廣田千穂, 木原円子, 久保田まりえ. リフレクションマッププログラム (RMP: 答えは自分の体験の中にある) は臨床でどのように活用できるか. 第 29 回日本緩和医療学会学術集会 2024.06.04 神戸

#### [受賞]

1. 第 26 回日本医療マネジメント学会学術総会優秀演題賞 (尾木美智, 森脇睦子, 田中陽菜, 鳥羽三佳代, 佐々木美樹, 緒方泰子, 伏見清秀), 日本医療マネジメント学会, 2024 年 06 月
2. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会優秀演題賞 (廣田), 日本心臓リハビリテーション学会, 2024 年 07 月

3. 日本看護学教育学会 第34回学術集会優秀演題賞（長井聡子，緒方泰子），一般社団法人日本看護学教育学会，2024年08月
4. 学術論文奨励賞（松村いつみ），一般社団法人日本看護管理学会，2024年08月
5. 日本看護学教育学会第34回学術集会優秀演題賞：発展部門 示説（長井聡子），一般社団法人日本看護学教育学会，2024年08月

#### [社会貢献活動]

1. 公立大学法人東京都立大学非常勤講師（緒方），2007年04月01日 - 現在
2. 日本医療・病院管理学会編集委員会委員（緒方），2007年05月29日 - 現在
3. 日本看護評価学会学術集会 実行委員（森陽子），2014年03月 - 現在
4. 日本看護評価学会 幹事（森陽子），2016年05月 - 現在
5. 日本看護評価学会編集委員会委員（緒方），2019年04月01日 - 現在
6. 日本医療・病院管理学会 認定フェロー（佐々木美樹），2024年04月01日 - 2029年03月31日
7. 日本医療・病院管理学会 認定フェロー（緒方泰子），日本医療・病院管理学会，2024年06月01日 - 現在
8. 公益社団法人滋賀県看護協会「心理的安全性を高め、組織のパフォーマンス向上をめざそう～リーダーシップのあり方～」（佐々木美樹），2024年07月17日
9. 聖路加看護学会広報委員会（廣田），2024年08月 - 現在
10. 公益社団法人福島県看護協会研修「心理的安全性を高め、組織のパフォーマンスを向上しよう—リーダーシップのあり方—」（佐々木美樹），2024年08月22日
11. 第14回日本看護評価学会学術学会実行委員（陳），京都，2024年09月13日 - 2024年09月14日
12. 日本医療・病院管理学会評議員、理事（緒方）
13. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座講師（緒方）
14. 江東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進会議副委員長（緒方）
15. 東京慈恵会医科大学非常勤講師（緒方）
16. 日本医療・病院管理学会事業委員会委員長（緒方）

## 災害・クリティカルケア看護学分野

### Department of Disaster and Critical Care Nursing

教授 佐々木 吉子  
准教授 今津 陽子  
講師 野口 綾子（集中治療部兼任）  
プロジェクト助教 濱館 陽子  
特任研究員 藤村 麻衣子（7月から）  
事務補佐員 岡田 久美子

大学院生（博士5年一貫制）

<共同災害看護学専攻>

小曾根 京子

鴨田 玲子

<災害・クリティカルケア看護学分野>

佐藤 由紀子

劉 菲

富田（島本） 亜沙子（3月まで）

家持 縁

佐藤 央

佐々木 肇

堀江 実佐

櫻井 真秀子

下村 祐哉

阿部 誠人（4月から）

加藤 耕平（4月から）

宮田 千里（4月から）

#### (1) 分野概要

当分野は、2014年4月に、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」として、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学による共同教育課程（5年一貫制博士課程）が開設され、本学の「共同災害看護学専攻」として創設された。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる災害看護のグローバルリーダーを養成することを目標としてきた。2019年までに5大学で52名が入学し、2024年3月までに32名が修了して、教育や実践の現場で活躍している。

文科省事業の終了に伴い、2019年度の入学者を最後に同プログラムは学生募集を停止し、2021年度からは、新たに看護先進科学専攻の「災害・クリティカルケア看護学分野」として改組された。5大学災害看護コンソーシアムを組織し、災害看護グローバルリーダーの養成を継承するとともに、クリティカルケア看護の教育・研究にも携わり、日本看護系大学協議会より、クリティカルケア看護の高度実践看護師教育課程としての認定を受け、コースを開講し、2024年12月には2名のコース修了生が急性・重症患者看護専門看護師として認定を受けた。それぞれの領域における高度な実践力、研究力を備えた人材の育成に努めている。

## (2) 研究活動

「災害・クリティカルケア看護学分野」では、以下の研究に取り組んでいる。

### 1. 災害看護：

- ・災害急性期における看護支援に関する研究
- ・災害時要配慮者への災害の備えの支援に関する研究
- ・がん患者と家族の災害への備えに関する研究
- ・大災害を体験した人々の経験の意味の探究
- ・大規模災害時の帰宅困難者対策
- ・企業の災害対策支援
- ・臨床看護師の CBRNE 災害看護対応のための教材開発
- ・被災自治体職員への支援

### 2. クリティカルケア看護：

- ・外傷、重篤疾患の急激な発症や悪化、高侵襲治療により心身の危機的状況にある患者、家族の体験に関する研究
- ・重症で意思疎通が困難な患者の看護ニーズの探究とケアに関する研究
- ・COVID-19 の重症患者ケアに関する研究
- ・一般病棟患者の重症化を予防するための Rapid Response System と Early Warning System に関する研究
- ・PICS、PICS-F に関する研究

## (3) 教育活動

学部教育では、2024 年度は、医学部保健衛生学科看護学専攻 1 年次後期の「看護の統合と実践」、2 年次後期の「災害看護学」、3 年次前期の「クリティカルケア看護学」、4 年次前期の「看護の統合と実践Ⅱ」（旧カリ）、「看護の統合と実践実習」、「卒業論文Ⅱ」を担当した。

「看護の統合と実践」では、看護専門職に必要とされる知識・技術・態度について学生自らが考え、看護観を育み、短期的、長期的な自身の学修およびキャリアプランについて検討することを目的として、様々な看護職からの講義やディスカッションを通して学ぶ。「災害看護学」では、災害対応や災害対策に豊富な経験を有する講師による講義とディスカッションにより、学生は災害各期の医療や看護活動について学ぶ。「クリティカルケア看護学」では、生命の危機状態にある患者とその家族への看護支援について学ぶ。「看護の統合と実践実習」では、病院機能全体において看護職が果たす役割を総合的な体験・実践を通して理解することを目的とし、既習の知識や技術を基盤として、現場の看護職に求められる知識・技術・態度についてあらためて考察し、学生自らの課題を見出し、総合的な看護実践能力を身に着ける。

大学院では、「共同災害看護学専攻」および「看護先進科学専攻」において、災害看護学、クリティカルケア看護学の高度実践者および研究者を育成する。災害看護学については、5 大学で構成する共同教育課程および災害看護コンソーシアムにおいて、グローバルリーダー（DNGL）を志す学生に対して、災害看護に関する多様な課題に対応できる、国際的・学際的指導力を発揮するグローバルリーダーを養成している。クリティカルケア看護学では、心身の危機状態にある、あるいは危機に陥りやすい重症患者やがん患者とその家族に対する高度看護実践者および研究者を育成している。クリティカルケア看護の高度実践者を志向する学生に対しては、日本看護系大学協議会より認定を受けて、「急性・重症患者看護高度実践看護師」の教育コースを開講している。

## (4) 教育方針

学部教育では、看護専門職に求められる知識・技術・態度、看護観について学生自身が 4 年間の学修を通して育み、既習の知識や技術を基盤とした総合的な臨床実践能力を有する実践者を養成することを目標としている。最終学年である 4 年次生の実習では、既習の知識・技術を基に総合的な臨床実践能力を養成するため、シミュレーション教育、実習を配置する。

大学院教育では、修了後は災害看護もしくはクリティカルケア看護の領域で、実践者もしくは教育研究者として自立し、国際社会でも活躍できる高いコミュニケーション力を携え、リーダーシップを発揮することのできる人材を養成することを目標としている。そのため、学生の主体的な学修や研究への取り組みを重視するとともに、多様な学びの機会を支援する。

**(5) 臨床活動および学外活動**

## 1. 災害看護

様々な災害へ対応できる能力を養うため、災害看護コンソーシアムを構成する大学間の交流をはかっている。また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。当分野が力を入れている帰宅困難者対策については、2021年度大学提案事業に採択され、2022年4月から3年間、東京都総合防災部と連携し、「大規模災害発生時の帰宅困難者民間一時滞在施設の対応力強化支援事業」を行っている。

## 2. クリティカルケア看護

大学病院の集中治療部、ERセンターとの交流や、臨床課題に関する共同研究を行っている。

**(6) 研究業績****[原著]**

1. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] Keiko Hatanaka, Yoshiko Sasaki, Makoto Tanaka. Adjusting to living with chronic liver disease among patients who continue regular healthcare visits for hepatocellular carcinoma surveillance: A grounded theory study Japan Journal of Nursing Science. 2024.08; 21(4); e12619
2. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] Imazu Y, Kondo A, Ushikubo M, Kanbara S, Kawahara N, Kondo M. Anxiety among Japanese nursing researchers before and after dispatch for COVID-19 pandemic support: Effects of anxiety-enhancing and buffering factors. Japan journal of nursing science : JJNS. 2024.06; 21(4); e12608
3. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] Yukari KAMOCHI, Yoko IMAZU and Yoshiko SASAKI. Factors and effects of natural disaster-related stress on local government employees who live in affected areas: A scoping review Health Emergency and Disaster Nursing. 2024.01; 11(1); 1-11

**[書籍等出版物]**

1. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐藤 央] 佐藤央, 朝田慎平. 4. 壊死性軟部組織感染症 (NSTI) (横山俊樹 監. 症状経過と早期対応は病態生理が9割). メディカ出版, 2024.01 (ISBN : 978-4-8404-8521-0)

**[総説]**

1. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 濱館陽子. 【いざという時のために日常の産業保健活動における災害への備え】 災害に備えた他部門などとの連携や帰宅困難者対策 産業保健と看護. 2024.04; 16(3); 6-13

**[講演・口頭発表等]**

1. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] Yoko Hamadate, Yukari Kamochi, Maiko Fujimura, Reiko Kamota, Yoko Imazu, Yoshiko Sasaki. Activity report on the project for strengthening disaster response of temporary shelters for stranded people in Tokyo at Tokyo Inland Earthquake. The 8th International Conference of World Society of Disaster Nursing (WSDN) 2024.12.01 兵庫県神戸市
2. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata, Masaomi Ikeda, Kanae Tanaka, Yumiko Ogawa, Shigeru Miyamae, Yoko Hamadate, Yoko Imazu, Yutaka Ueki. Survey on CBRNE Disaster Casualty Acceptance Readiness and Staff Education Needs at Regional Medical Care Support Hospitals. The 8th International Conference of World Society of Disaster Nursing (WSDN) 2024.11.30 Kobe
3. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] Yoko IMAZU, Yoshiko SASAKI, Akiko KONDO, Satoru YAMADA, Hiroko AZECHI, Chisato HAYASHI, Misako MIYAZAKI, Naho SATO, Makiko NOGUCHI, Ai OGATA, Sonoe MASHINO, Mari KINOSHITA. Achievement for Ten years in Cooperative Graduate Education Program: Disaster Nursing Global Leader Program (DNGL). The 8th International Conference of World Society of Disaster Nursing (WSDN) 2024.11.30
4. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] Tomoko KOMAGATA, Yoshiko SASAKI. What makes nurses busy?: A descriptive study on reality of nursing practice in a hospital in Tokyo, Japan.. Leading Innovation for Nursing & Midwifery Education, Policy and Practice 2024.09.03 Bhadra, Nepal

5. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] Yoko Imazu. Simulation education at TMDU. Joint seminar at NTNU 2024.06.04 Trondheim, Norway
6. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] Tomoko KOMAGATA, Yoshiko SASAKI, Kitaro YOSHIMITSU, Etsuko KOBAYASHI, Kenta KUWANA, Kaori KUSUDA, Ken MASAMUNE. Bridging between clinical nursing practice and robotics: Which nursing tasks can be transferred to robots?. 2024 IEEE INTERNATIONAL CONFERENCE ON ROBOTICS AND AUTOMATION 2024.05.17 Yokohama
7. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] Yoko Imazu, Kumi Kanno.. Effectiveness of an Educational Program to Improve Earthquake Preparedness Among Chemotherapy Nurses: A Pilot Study. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024 2024.03.06 Hong Kong, China
8. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] Kumi Kanno, Yoko Imazu.. Qualitative Verification of an Educational Program to Improve Earthquake Preparedness Among Chemotherapy Nurses.. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024 2024.03.06 Hong Kong, China
1. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 縣智香子, 坂口みきよ, 佐々木吉子. クラスタ支援によって明らかにされた課題—都市部の感染対策支援チーム ICN が作成した報告書の質的検討—. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 示説. 2024.12.08 熊本市
2. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] 今津陽子, 近藤暁子, 牛久保美津子, 神原咲子, 河原宣子, 近藤麻理. 新型コロナウイルス感染症感染拡大状況において派遣された看護学研究者の支援活動前後の不安と影響要因. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.08 熊本県熊本市
3. [災害・クリティカルケア看護学分野：堀江 実佐] 堀江実佐, 佐々木吉子, 今津陽子. 補助人工心臓装着患者の家族を支援するクリティカルケア看護師の経験. 第 21 回日本循環器看護学会学術集会 2024.11.10
4. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 宮川祥子, 濱館陽子. 災害時の保健医療福祉調整本部における情報課題の整理. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.29 北海道札幌市
5. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 佐々木吉子, 今津陽子, 濱館陽子, 藤村麻衣子, 鴨田玲子, 家持縁. あなたの施設では大規模災害時の帰宅困難者対策をどうしていますか? . 日本災害看護学会第 26 回年次大会 2024.09.24 オンライン
6. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 古川真帆, 濱館陽子, 今津陽子, 佐々木吉子, 家持縁. 首都圏で大規模自然災害が発生した際に病院が隣接する都内の大学の看護学生に期待されること. 日本災害看護学会第 26 回年次大会 2024.09.24 オンライン
7. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 小林賢吾, 田中加苗, 溜祐一, 酒井彰久, 岡崎敦子, 濱館陽子, 松田朋子, 町田友里, 神原咲子. 日本災害看護学会若手アカデミー委員会学会企画 6「若手アカデミーの活動報告と若手アカデミーと考える災害関連死を防止するための方策」. 日本災害看護学会第 26 回年次大会 2024.09.24 オンライン
8. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 今津陽子, 森下安子, 中信利恵子, 松尾香織, 濱館陽子. 日本災害看護学会災害看護倫理検討委員会学会企画 3「災害看護研究における倫理について考える」. 日本災害看護学会第 26 回年次大会 2024.09.24 オンライン
9. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 上路麻美, 馬野由紀, 佐々木吉子, 鴨脚令子, 源平雄大, 石川佳代子, 加藤節子. 地域住民への減災出前講座の効果 - 過去の受講者アンケートからの分析—. 日本災害看護学会第 26 回年次大会 2024.09.24 オンライン
10. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 浅香えみ子, 岡林紀恵, 國江慶子, 佐々木吉子, 増野園恵, 宮園幸江, 山本由美, 吉田るみ. 災害派遣時の派遣者と自施設勤務者のモチベーションを維持・向上させるマネジメント課題. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 指定インフォメーションエクステンジ 2024.08.23 名古屋
11. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] 杵木優子, 浅野耕太, 宮下光令, 今津陽子. 日本がん看護学会災害対策委員会主催研修会「新型コロナウイルス感染症 5 類以降後のがん看護に求められる感染対策」. 第 38 回日本がん看護学会学術集会 2024.02.24
12. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] 岸田さな江, 天野薫, 今津陽子, 岩永和代, 上村敬子, 笠谷美保, 風間郁子, 菅野久美, 村上富由子, 中信利恵子, 村松真実, 山田希. 日本がん看護学会 SIG 災害がん看護グループ主催交流集会「今だから見直そう! 災害時に備えるがん患者のセルフケア支援~ここだけは押さえない、日々の患者とのかかわりの中での声かけ~」. 第 38 回日本がん看護学会学術集会 2024.02.24 兵庫県神戸市

13. [災害・クリティカルケア看護学分野：家持 縁] 家持縁, 濱館陽子, 藤村麻衣子, 鴨田玲子, 今津陽子, 佐々木吉子. 東京都の帰宅困難者一時滞在施設における市民対象の傷病者対応講習会の実施から見出された効果と課題. 第29回日本災害医学会総会・学術集会 2024.02.22 京都府京都市
14. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 佐々木吉子. 「発災すると医療はどうなる？ 周囲に起こりうることと予想される医療の状況」, 首都直下地震が発生した場合に帰宅困難者を 受け入れる事業所が経験することと備え. 帰宅困難者一時滞在施設向け講演会 2024.02.20 東京

### [その他業績]

1. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] 一般社団法人日本がん看護学会 SIG 災害がん看護主催学習会「災害時の「食べる」について学ぼう」の企画運営（今津陽子）, 2024年11月  
災害時の「食べる」支援について改めて学ぶことを通して、臨床で日々接するがん患者や家族にどのようなケアを提供できるか、考えるヒントを得ることを目的に、日本がん看護学会会員を対象としたセミナーを企画運営した。講師として中久木康一（東北大学大学院歯学研究科特任講師・日本災害医学会災害時「食べる」連携委員長）をお招きし、講演及びグループワークを行った。
2. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] 頭頸部がん治療と就労の両立支援のためのシンポジウム～医療者間の情報共有～「第1部 研究成果の報告：頭頸部がん治療と就労の両立とは —インタビューの1例から—」（今津陽子）, 2024年12月  
東京都保健医療局主催、東京科学大学後援の「頭頸部がん治療と就労の両立支援のためのシンポジウム」において、研究成果の報告として頭頸部がん患者の就労に関するインタビュー成果を報告した。本シンポジウムは、令和5年度東京都大学提案事業「がん治療と就労の両立に向けた支援事業」により開催された。

### [社会貢献活動]

1. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 東京医科歯科大学病院研究支援（佐々木吉子）, 2005年10月 - 現在
2. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース（佐々木吉子）, 日本看護協会, 2010年 - 現在
3. [災害・クリティカルケア看護学分野：堀江 実佐] AHA ACLS インストラクター活動（堀江実佐）, 2019年10月 - 現在
4. [災害・クリティカルケア看護学分野：今津 陽子] 東京医科歯科大学病院研究支援（今津陽子）, 2020年04月 - 現在
5. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 東京慈恵会医科大学医学部看護学科非常勤講師（災害看護学；佐々木吉子）, 2020年04月01日 - 現在
6. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 東京都事業防災リーダー必携編集委員会委員（佐々木吉子）, 東京都総務局総合防災部, 2023年09月27日 - 2024年03月29日
7. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 東京都企業防災リーダーアドバイザー（佐々木吉子）, 東京都, 2023年12月08日 - 2024年03月15日
8. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 令和5年度鹿児島県・熊本県国民保護共同実動・図上訓練への参加（濱館陽子, 家持縁）, 2024年01月20日 - 2024年01月21日
9. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 令和5年度神奈川県国民保護共同実動・図上訓練への参加（濱館陽子）, 2024年02月06日
10. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 令和6年能登半島地震 災害支援（佐々木吉子）, 日本看護協会, 石川県金沢市, 2024年02月08日 - 2024年02月11日
11. [災害・クリティカルケア看護学分野：佐々木 吉子] 第29回日本災害医学会学術集会 ポスターセッション座長（佐々木吉子）, 第29回日本災害医学会学術集会, 京都市, 2024年02月22日
12. [災害・クリティカルケア看護学分野：濱館 陽子] 令和5年度千代田区帰宅困難者対応訓練への参加（佐々木吉子, 濱館陽子）, 東京駅周辺, 2024年03月08日

### Ⅲ.2024 年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覽表

## 2024年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士(看護学)55名

	学 生 氏 名	論 文 題 目
1	市 野 利 奈	Ambulatory Care Sensitive Conditions により入院した65歳以上患者の入院中の看護必要度B得点の変化－全国のDPCデータ266,191症例の分析－
2	葛 西 ひより	医療保護入院の都道府県格差とその関連要因
3	粕 谷 明 日 海	訪問看護事業所における利用者の夜間・休日・時間外の急変時対応に関する医療機関との事前取り決めの実態－全国調査の分析－
4	角 田 音 々	平成 30 年度から令和 3 年度までの都道府県ごとの人口あたりオンライン診療料算定回数の推移と関連要因
5	長 谷 川 夢 留	訪問看護提供中のインシデントの発生要因－インシデントレポートの分析－
6	小 泉 晟 利 奈	訪問看護の現場におけるインシデント発生時の初期対応－インシデントレポートの分析－
7	今 井 夏 海	テレワーク労働者における運動機能向上プログラムの効果
8	東 珠 希	ポストコロナ時代におけるテレワーク労働者の生活習慣と運動機能の実態
9	岡 部 歩 佳	子育て世代の被扶養者女性における生活習慣病予防健診の受診継続に関連する要因についての検討
10	尾 崎 裕 佳	東京都における乳がん検診受診率の社会的要因に関する生態学的研究
11	菅 原 茉 莉	大学生が持つ HIV/ AIDS に関する知識が偏見に与える影響の検討
12	村 尾 茉 莉	1 歳 6 ヶ 月 児 健 診 に お い て 発 達 障 害 を 早 期 発 見 ・ 支 援 す る 際 の 保 健 師 の 困 難 感 と 対 処 法
13	高 須 美 帆	健康推進委員が感じる難しさ・課題の実際と乗り越えるための保健師との協働の検討
14	織 田 知 優	せん妄を発症した患者の体験に関する文献レビュー
15	小 林 智 香	思春期・若年成人患者の親が抱える困難に関する文献研究
16	今 場 智 美	看護師の感情労働が職務継続意思に与える影響に関する文献研究
17	関 口 歩 実	摂食障害患者に対する看護実践の文献レビュー
18	野 口 佳 那 美	手術室看護師による意識下手術を受ける患者が抱える不安への術前の関わりについてのインタビュー調査
19	森 田 永 絆	看護師の夜間勤務における ICT 利活用に関するインタビュー調査
20	小 山 美 咲	体重階級制競技における食行動異常のリスクファクター：文献レビュー
21	中 山 智 香 子	中高生の相談行動に関する親・教師についての要因－知識・態度・行動に着目して－：文献レビュー
22	小 濱 咲 希	精神科看護師が行うリフレクションが看護実践にもたらす効果：文献レビュー
23	山 口 百 佳	看護職員による父親の産前・産後うつを予防するための支援の実態と有効性：文献レビュー
24	西 田 紗 希	里親支援において支援者がスキル不足を認識しやすい要因
25	荒 木 芽 衣	NICU におけるきょうだい支援に関する文献検討
26	内 田 朱 音	看護管理者が捉える入院中の子どもに付き添う家族のwell-beingと生活を支えるために必要な支援
27	高 月 聡 子	訪問看護師による医療的ケア児のきょうだいに対する看護支援

	氏名	論文題目
28	醍醐葵	食生活改善のための非ランダム化比較試験の介入群の女子大学生における食行動の変容に影響する経験：質的研究
29	白石真綾香	復職後の母乳育児継続の実態と障壁に関する質的研究
30	齋藤彩花	保育園における母乳育児支援の障壁と推進に関する質的研究
31	栗川真菜	性暴力予防のためのBystander介入プログラムに関するスコーピングレビュー
32	鶴澤玲子	性暴力予防を目的とした傍観者介入プログラムの測定項目に関するスコーピングレビュー
33	豊島芽生	テキストマイニングによる病院や診療所における初産婦のポジティブな出産体験に関する希望の分析
34	二宮穂乃佳	都道府県別に見た専門・認定看護師による同行訪問：オープンデータを用いた地域比較
35	村山叶恵	訪問看護ステーションの利用者特性と救急搬送者数の関連
36	安田琳	在宅療養者の災害時個別支援計画の策定と活用における支援者の関わり：文献検討
37	高橋実鈴	高齢者における訪問看護事業の認知と死亡の関連－全国高齢者パネル調査を用いて－
38	飯山実夏	糖尿病に関連する生活習慣因子の探索－NDBオープンデータを用いた都道府県比較－
39	森田幸穂	自然災害における訪問看護職員の安全確保についての文献レビュー
40	田崎澄鈴	退院後の在宅療養を支えるICTを用いた継続支援に関する文献検討
41	坂本りん花	老人福祉施設におけるデジタルヘルスを用いた終末期ケアに関する文献検討
42	小西瑠菜	The Outcomes of Village Health Teams on Maternal and Child Health in Uganda
43	志賀令奈	災害看護活動に従事する看護師の活動後の心理的变化とサポートに関する研究
44	稲見梓	Comparison of resilience and other factors with intention to receive additional COVID-19 vaccination between nursing students in Japan and Hong Kong: A cross-sectional study
45	池田陽香	転倒に対する入院高齢患者の認識とそのスケール－海外と比較して－：スコーピングレビュー
46	今江紗希	睡眠障害を有する認知症高齢者への看護師の睡眠介入の実践に関する質的研究
47	栗原佳穂	看護部長の睡眠の実態とワーク・エンゲイジメントとの関連
48	齊藤由佳	シラバスにみる看護学士課程における「臨床判断」や「臨床推論」教育の実態
49	庭屋実莉	Fall Prevention Knowledge Test (FPKT)日本語版の作成
50	矢嶋莉子	Self-Efficacy for Preventing Falls Nurse and Assistant scales 日本語版の開発
51	東海林愛子	在宅療養中の頭頸部がん術後患者の災害への備えの実態と身体症状との関連
52	津島萌花	災害拠点病院における一般病棟での災害対策の現状と課題－病棟ごとの特徴に注目して－
53	杉菜摘	ICUに長期滞在した患者に対する継続した看護に向けたICU看談師と一般病棟看護師の連携と共同
54	長尾柚葉	看護師が行う院内トリアージの質向上を目指す方法に関する文献検討
55	松本唯愛	自然災害発生後の仮設住宅入居者に対して提供された看護支援に関する文献検討

#### IV. 2024 年度大学院保健衛生学研究科博士課程

##### 課題研究題目一覧表

2024年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文一覧表

○修士（看護学）8名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	山口 恵美	看護先進科学専攻	柏木 聖代	中小規模病院における看護師がかかえる課題：スコوپングレビュー	緒方 泰子	佐々木 美樹	廣岡 佳代
2	大柿 真彦	看護先進科学専攻	柏木 聖代	1950年から2024年までの看護職の離職と定着に関する研究の学術的俯瞰:Citation Network Analysis	田中 真琴	今津 陽子	川本 祐子
3	小谷 愛	看護先進科学専攻	緒方 泰子	Managerial empowerment behavior and nursing staff creativity with intrinsic motivation as a mediator: Secondary analysis of visiting nurses in Japan	月野木 ルミ	野口 麻衣子	松長 麻美
4	櫻井 真秀子	看護先進科学専攻	佐々木 吉子	集中治療室において看護師が行うリハビリテーションについての概念分析	谷口 麻希	川上 明希	矢郷 哲志
5	下村 祐哉	看護先進科学専攻	佐々木 吉子	ICU入院中の成人患者の家族におけるストレスとコーピング：スコوپングレビュー	谷口 麻希	岡光 基子	佐々木 美樹
6	高田 侑李	看護先進科学専攻	福井 小紀子	介護施設入居者における要介護度の適切性：Barthel Indexによる分析と介護支援専門員の判断	柏木 聖代	川上 明希	森田 久美子
7	町田 亜子	看護先進科学専攻	柏木 聖代	退院調整部門の人員配置と病棟単位の平均在院日数との関連：病床機能報告を用いた急性期機能を持つ病棟単位での横断的分析	佐々木 吉子	佐々木 美樹	菅野 雄介
8	周 瑤	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Burnout levels and associated factors among newly graduated nurses: a systematic review and meta-analysis	緒方 泰子	松長 麻美	森岡 典子

課程博士

○博士（看護学）10名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	石井 佳代子	看護先進科学（公衆衛生看護学分野）	森田 久美子	Mixed-methods research of motivational processes in workers' adoption of healthy behavior	谷口 麻希	佐々木 吉子	廣岡 佳代
2	佐川 美枝子	看護先進科学（在宅・緩和ケア看護学分野）	福井 小紀子	Patterns of long-term care service use and multimorbidity in older Japanese adults: A cross-sectional study of claim data	柏木 聖代	松崎 政代	川上 明希
3	大竹 文	看護先進科学（公衆衛生看護学分野）	森田 久美子	The Process of Home-Visiting Nurses Supporting People with Mental Disorders	柏木 聖代	谷口 麻希	今津 陽子
4	古川 彩子	看護先進科学（看護ケア技術開発学分野）	柏木 聖代	Employment status of older nursing staff aged 55 years and older in care facilities: A nationwide cross-sectional study in Japan.	佐々木 吉子	谷口 麻希	川上 明希
5	畑中 佳子	看護先進科学（先端侵襲緩和ケア看護学分野）	田中 真琴	Adjusting to Living with Chronic Liver Disease Among Patients Who Continue Regular Healthcare Visits for Hepatocellular Carcinoma Surveillance: A Grounded Theory Study	緒方 泰子	岡光 基子	田中 真琴
6	堀田 宗一郎	看護先進科学（先端侵襲緩和ケア看護学分野）	田中 真琴	Development of a Scale to Assess Nurses' Difficulties in Collaborating with Physicians in Responding to Clinical Deterioration during Night Shifts	緒方 泰子	柿沼 晴	森岡 典子
7	丸山 佳代	看護先進科学（公衆衛生看護学分野）	森田 久美子	Effectiveness of a social media-based diet and physical activity programme for fathers in Japan: A randomised controlled trial	松崎 政代	谷口 麻希	廣岡 佳代
8	山口 さおり	看護先進科学（看護管理・高齢社会看護学分野）	緒方 泰子	The impact of resilience and leader-member exchange on actual turnover: A prospective study of nurses in acute hospitals	田中 真琴	柏木 聖代	松長 麻美
9	生田 花澄	看護先進科学（在宅・緩和ケア看護学分野）	福井 小紀子	Physical Function Trajectory among High-Functioning Long-Term Care Facility Residents: Utilizing Japanese National Data	谷口 麻希	月野木 ルミ	森岡 典子
10	小曾根 京子	共同災害看護学	佐々木 吉子	Lifestyle and disaster preparedness of residents of public housing complexes with a high elderly population	佐々木 吉子 (東京科学大学)	増野 圓恵 (兵庫医科大学) 野口眞貴子 (日本赤十字看護大学)	緒方 泰子 (東京科学大学) 川上 勝 (自衛医科大学)

論文博士

○博士（看護学）2名

	氏名	専攻	推薦教員	論文名	主査	副査	副査
1	岩崎 弓子			Family Caregivers' Needs in Long-Term Care Facilities: A Descriptive Qualitative Study	月野木 ルミ	福井 小紀子	佐々木 吉子
2	藤田 和寿			ICU患者のComfortを実現していくエキスパート看護師のComfortケア実践に関する解釈的記述	松崎 政代	月野木 ルミ	野口 麻衣子

## V. 委員会委員名簿

2024 年度 各種委員会等メンバー

2024 年 4 月 1 日

〔大学院〕  
 保健衛生学研究科長:福井  
 大学院教育委員会委員長(看護):柏木  
 大学院教育委員会委員長(検査):柿沼  
 看護先進科学専攻長:佐々木(吉)  
 共同災害看護学専攻長:佐々木(吉)  
 生体検査科学系教授会議長:

〔学部〕  
 保健衛生学科長:角  
 学部教育委員会委員長:緒方  
 看護専攻主任:田中  
 検査技術学専攻主任:齋藤

☆責任者 ○副責任者 ( ) オブザーバー

〔大学院教育委員会〕	【看】	☆柏木、佐々木(吉)、月野木、松崎、(谷口・佐々木美)	
〔大学院教育委員会〕	【検】	☆柿沼、角、伊藤、齋藤、鈴木、西尾、副島、吉本	
〔学部教育委員会〕	【看】	☆緒方、田中、月野木、野口麻、(小笹、森岡)	
	【検】	☆星、伊藤、齋藤、柿沼、(角)(陪席:大川、田中)	
〔国際教育・研究センター〕 (検査のみ兼任)(海外学生交流受入・遠隔交流 WG)	【看】	☆近藤、谷口、津田、川上、廣岡、小笹、矢郷、湯本	
	【検】	○大川、鈴木、松沢、副島、太田	
〔統計・データサイエンス WG〕	【検】	角	【看】森田
〔教学 IR〕	【検】	大川	【看】月野木
〔統合教育多職種連携教育 WG〕	【看】	☆田中、佐々木美、(当日)川本、森岡、湯本、矢郷、津田、廣山、菅野、今津	
〔検査 CBT/OSCE 担当委員会・スキル検 検討委員会〕	【検】	☆柿沼、大川、松沢、赤座、藤代、河原	
〔学部カリキュラム委員会〕	【看】*	☆月野木、柏木、田中、緒方、近藤、松崎、佐々木吉、○岡光、野口麻、松長	
	【検】	☆星、角、齋藤、副島、太田	
〔実習・臨地実習担当委員会〕	【看】	☆今津、矢郷、○川本、津田、廣山、○湯本、松長、菅野、小笹、松坂(委員長、副委員長は委員会で決定)	
〔実習・臨地実習・タスクシフト担当委員会〕	【検】	☆齋藤、西尾、赤座、副島、藤代、太田、河原、吉本	
〔卒業論文委員会〕	【看】	☆佐々木(美)、廣岡、小笹、廣山、川本、松坂	
〔卒業研究委員会〕	【検】	☆鈴木、星、本間、山口	
〔進級判定〕	【検】	☆齋藤	
〔卒業試験委員会〕	【検】	☆田中、本間、河原	
〔進路指導委員会〕	【看】	3・4 年生学年担任	
	【検】	☆大川、鈴木、田中、本間、吉本	
〔国試対策委員会〕	【看】	☆森田、廣山	
	【検】	☆副島、田中、藤代、本間、太田、山口、河原、吉本	
〔学年担任〕		【看】	【検】
・1年生(36 回生)		野口麻、川本	田中
・2年生(35 回生)		今津、松坂	大川
・3年生(34 回生)		川上、湯本(進路指導担当)	星
・4年生(33 回生)		岡光、森岡(進路指導担当)	柿沼
〔試験監督調整委員〕		津田	田中(期末試験・卒業試験)
〔保健衛生学科 FD 委員会〕		【看】☆岡光、廣山、塩澤	【検】☆大川、田中
〔親睦会・会計〕	【検】	☆柿沼、松沢、山口、河原	
〔LAN・ホームページ・広報担当委員会〕	【検】	☆西尾、藤代、本間、山口	
〔総務〕(旧親睦会・会計、LAN・HP、図書・広報を吸収)	【看】	☆森田、○佐々木美、津田、湯本	
〔自己点検・評価委員会〕	【看】	☆緒方、谷口、矢郷	
	【検】	☆齋藤	
〔生体検査科学セミナー・リサーチカンファ委員会〕	【検】	☆鈴木、伊藤、松沢、山口、吉本	
〔オープンキャンパス等・受験生対策 WG〕 (出前授業・サマプ ロラム吸収)	【看】	☆松長、○廣岡、岡光、森田、小笹、菅野、津田、川本、松坂、湯本(オープンキャンパス当日は全分野の助教)	
	【検】	☆西尾、赤座、副島、本間、藤代、太田、山口、河原、吉本	
〔医歯学融合教育委員会〕(シナリオ作成)	【検】	☆柿沼、松沢、赤座、副島、藤代、太田	
〔実習室等の管理〕	【検】	7階:星、8F実1:大川、8階実2:齋藤、8F実3:柿沼、研修室:太田	
〔看護人材育成ワーキング(看護部との教育連携)〕	【看】	コアメンバー:☆田中、柏木、佐々木吉 メンバー:今津、川上、森岡	
〔未来創成ナースングリサーチセンターNIReC〕	【看】	センター長:☆福井 病院:○田中、○松崎、緒方、谷口、近藤、岡光、廣岡、今津、川上、佐々木美、小笹 東工大:○柏木、○月野木、佐々木吉、森田、野口麻、松長、森岡、菅野	

\*定期的に情報共有。例:①各委員長・大学院教育委員長・学部教育委員長・研究科長 →②全教授 (→③全教員)【その他全学/学外】

## VI. 就職状況一覧表（2025年3月卒業・修了者）

就職状況一覧表

2025.5.1現在

(看護先進科学・共同災害看護学)

区分		学部 (看護学)		大学院		
				博士課程		
		小計	合計	小計	合計	
進学	本学	0	6	0	0	
	本学以外	6		0		
就職	看護師	本学	43	48	1	8
		本学以外	5		1	
	保健師		0		0	
	助産師		0		0	
	准教授(大学機関)		0		1	
	講師(大学機関)		0		0	
	助教(大学機関)		0		4	
	助手(大学機関)		0		0	
	その他		0		1	
	その他(不明)		1		2	
合計		55		10		

東京科学大学大学院  
保健衛生学研究科年報

2024年度

保健衛生学研究科教育委員

柏木 聖代 委員長

佐々木 吉子

月野木 ルミ

松崎 政代

発行  
編集・発行

2026年3月

東京科学大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

<http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html>